

Publication of
Onomichi City University
Community
Collaboration &
Outreach Office

尾道市立大学 地域総合センター 叢書 no.11

Publication of
Onomichi **C**ity **U**niversity
Community
Collaboration &
Outreach Office

尾道市立大学
地域総合センター
叢書 no.11



ごあいさつ

平素は、尾道市立大学地域総合センターの活動に、多大なご理解とご協力を賜り、心よりお礼を申し上げます。

尾道市立大学では、学生や教員の研究活動の一環を、地域の皆様にお伝えする目的を持って、様々な種類の講座等を開催してきました。例えば、「教養講座」では、経済・情報・文学・美術・デザインはもちろん、その他主要な学問における新しい研究の成果をお話しし、地域の皆様のご質問やご意見を頂戴することによって、その研究成果を共有し、進展を継続してまいりました。この度お届けする叢書は、2019年度の「教養講座」と、2020年度までの2年間分の活動記録、および論考を掲載しております。ここ1～2年は、新型コロナウイルスの感染症により、上記活動に制限がかかってしまいましたが、安全ということを考慮に置きながら、その時点で出来ることを心がけ、活動を進めて来ましたが、また今後の情勢を考えると、市民の皆様とも、ネットやケーブルTV等の通信手段を通じて、新しいコミュニケーションのカタチが取れる様、準備を進める時期にいる気がしております。

今後も、地域との間で、講座等を通じて「知」の交流を行うことによって、地域における大学の役割について考えて行きたいと思っております。

地域総合センター長
世永 逸彦

目次

はじめに 尾道市立大学地域総合センター長 世永 逸彦 ————— 1

パロディーとは —『浮世風呂』を例に似ているということを考える—
尾道市立大学芸術文化学部日本文学科准教授 藤本 真理子 ————— 4

研究論文／研究要旨

尾道市立大学 教養講座について ————— 8

はじめて出会う「国画会」—始まりから現在—
尾道市立大学芸術文化学部美術学科油画コース講師 橋野 仁史 ————— 9

元号を読む
尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授 藤川 功和 ————— 14

人工知能を覗いてみよう
尾道市立大学経済情報学部経済情報学科准教授 木村 文則 ————— 18

税金戦争の現状（講演の要旨）
尾道市立大学経済情報学部経済情報学科教授 前田 謙二 ————— 22

尾道町の古文書を読む —江戸時代の暮らしを感じる—
尾道市立大学経済情報学部経済情報学科准教授 森本 幾子 ————— 25

公開講座開催リスト／アンケート集計

令和元（2019）年度 教養講座 アンケート集計	29
令和元（2019）年度 尾道学入門公開授業 アンケート集計	37
令和元（2019）年度 コンピュータ公開講座 アンケート集計	44
令和元（2019）年度 情報科学研究会 アンケート集計	46
令和元（2019）年度 尾道文学談話会 テーマ一覧	50
尾道市立大学教員 FM おのみち出演 トークテーマ一覧	52

受託研究

受託研究等一覧表	55
----------	----

新聞記事

中国新聞令和元年7月27日掲載	60
中国新聞令和2年10月9日掲載	60
尾道新聞令和元年12月27日掲載	61

講演会より

昔話の伝承世界 — 仏教説話と地域文化の変容 — 尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授 藤井 佐美	[2]
---	-------



藤本 真理子 (ふじもと まりこ)

大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。コソアド言葉や敬語など、日本語の語彙史・文法史の研究をおこなう。対象とする資料は、万葉集や源氏物語、狂言にマンガなど様々である。また言語変化の観点から、西日本を中心に方言調査もおこなっている。主な著書：『グループワークで日本語表現力アップ』(ひつじ書房、2016年、共著)、『鹿児島県飴島方言からみる文法の諸相』(くろしお出版、2019年、一部執筆)、『日本語の歴史的対照文法』(和泉書院、2021年、一部執筆)

パロディーとは —『浮世風呂』を例に似ているということを考える—

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科准教授
藤本 真理子

1. はじめに

レポートや論文の作成にあたって、「コピペ(コピーアンドペースト)」や「パクリ(盗用など)」はいわゆる違法行為にあたり、厳禁である。しかし、文学では、和歌には本歌取りという手法があり、作品にはオマージュなどの創作方法も見られる。文学におけるオマージュやパロディーとは何か。似ているとはどういうことかを本稿では、江戸時代の『浮世風呂』の例を対象に分析する。

このような表現の類似性について扱った著作には、今野真二氏の『盗作の言語学—表現のオリジナリティーを考える』(2015)などがある。今野氏は、パロディーとオマージュのちがいを以下のように説明している。

- (1) 「parody (パロディー)」はすでにある(周知の、あるいは一定の評価を得ている)作品を、揶揄、諷刺、批判などの目的をもって、つくりかえた作品のことをいう。この場合、その揶揄や諷刺、批判が当該作品に向けられているとは限らない。「パロディー」の場合、そのもととなっている作品が周知のものであったり、一定の評価を得ていることが大事なので、「似ている」ことになる。なにかに対しての「揶揄」が根底にあるところが、「オマージュ」との相違点といえよう。(今野真二 2015: 21)

2節でとりあげる『浮世風呂』に見られる例は、滑稽本として風呂に来る人たちを題材にした作品に取り入れられている時点で、「揶揄や諷刺、批判の目的をもって」にあたると考えられる。また、当時ある程度広く知られていたと考えられる作品にもとづいていることからパロディーの例とし

てとらえられるものと言えよう。2節ではテキストを示し、3節でその分析を行う。4節はまとめである。

2. パロディー関係にあるテキスト

まずは、式亭三馬による、江戸時代の滑稽本である『浮世風呂』より一節をとりあげる。

- (2) 春はあけぼの、やう〜白くなりゆくあらひ粉に、ふるとしの顔をあらふ初湯のけふり、ほそくたなびきたる女湯のありさま、いかで見ん物をとて松の内早仕舞ちふ札かけたる格子のもとにたゝずみ、障子のひまよりかいまみるに、そのさまをかしくもあり、又おのが身のぶざめいたるは、あさましくもありけり。
(浮世風呂、三編巻之上、p.176)

(2)を見ると、多くの人に思い浮かぶ作品があるだろう。それは(3)に示した『枕草子』の冒頭の場面である。

- (3) 春はあけぼの。やうやうしろくなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。夏は夜。月のころはさらなり、闇もなほ、螢のおほく飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。
(枕草子、p.25)

この2つの文章が似ていることは確かなことのようにだが、なぜこれらを見て、似ていると感じられるのか。何かしら似ているという判定をする要素が文中にあると考えられる。

3. パロディーの分析

2節で示したような関係をもつ文章どうしは、何が似ているから似ていると判断されるのか。

3.1 同じ表現

まず、気がつくのは、類似の表現が確認できる点である。(2)と(3)では、(4)の四角く囲った箇所のように同じ表現が確認できる。

- (4) 春はあけぼの、やう〜白くなりゆく あらひ粉に、ふるとしの顔をあらふ初湯のけふり、
ほそくたなびきたる 女湯のありさま、いかで見ん物をとて松の内早仕舞ちふ札かけたる 格子のもとにたゝずみ、障子のひまよりかいまみるに、そのさま をかしく もあり、又 おのが身のぶざめいたるは、あさましくもありけり。(浮世風呂、三編巻之上、p.176)

そのうち、特定の箇所でもとまって同じ語句が用いられているのは、(5)にあげた3点である。また、この3つの語句は出てくる順番も同じである。

- (5) a. 【浮】 春はあけぼの 【枕】 春はあけぼの
b. 【浮】 やう〜白くなりゆく 【枕】 やうやうしろくなりゆく

c. 【浮】ほそくたなびきたる 【枕】ほそくたなびきたる

(【浮】は『浮世風呂』, 【枕】は『枕草子』を表す。以下, 同じ。)

同じ表現を使用すること, 出現順が同じであることなどは, 先に触れた今野 (2015) でも, 盗作・剽窃が話題となった事例を扱う際の判断基準として, 次のように示されている。

- (6) 1 まったく同じ表現をマークする。
- 2 その「まったく同じ表現」の出現順に着目する。
- 3 特徴のある表現に着目する。 (今野 2015 : 44)

『浮世風呂』の一節が『枕草子』と似ていると判断される理由の一つとして, 特徴ある表現が同じ形で用いられ, また同じ順序で表れることがあげられる。

3.2 類似する音

今野 (2015) では「音の類似性」もパロディーを成り立たせる要素であると指摘されている。3.1に見た語句も音の重なりが確認できたが, その他, 母音の共通が聞こえを近くする (今野 2015 : 121) ということが, (2) と (3) においても確認できる。

- (7) 【浮】春はあけほの, やう〜白くなりゆくあらひ粉に
- (8) 【枕】春はあけほの。やうやうしろくなりゆく山ぎは

(7) と (8) で下線を引いた箇所の子音を見ると, (7) の「あらひ粉」が「ARAHI (KO)」で「A—A—I (O)」の並びである。(8) の「山ぎ (は)」は「YAMAGI (HA)」で「A—A—I (A)」である。ここは直前まで『枕草子』の冒頭で, 特徴ある表現をそのまま『浮世風呂』が取り入れた箇所であるため, それに続く語の子音が共通の並びを持つことも「似ている」と判断するのに効果的にはたらくしていると考えられる。

3.3 使用語彙の古めかしさ

3.1 節で示した点に加え, さらに『枕草子』を想起させる役割を果たしているのは, 「それらしい」語句であると言えそうである。たとえば, (2) に出てくる「障子のひまよりかいまみる」などは, 平安時代の作品にありそうな表現ととらえる人もいよう。実際, 「かいまみ」は古くは『竹取物語』にもその例が見られ, よく知られたものでは『伊勢物語』の初段の「初冠」の例などが挙げられる。

- (9) a. そのあたりの垣にも家の門にも, をる人だにたはやすく見るまじきものを, 夜は安きいも寝ず, 闇の夜にいでも, 穴をくじり, 垣間見, 惑ひあへり。 (竹取物語, p.19)
- b. むかし, 男, 初冠して, 奈良の京春日の里に, するよしして, 狩にいにけり。その里に, いたなまめいたる女はらからすみけり。この男かいまみてけり。 (伊勢物語, 一段, p.113)

『枕草子』内でも「かいまみ」は(10)のように, 確認することができる。

(10) おもものをりになりて、御髪上げまゐりて、蔵人ども、御まかなひの髪上げて、まゐらするほどは、へだてたりつる御屏風も押しあけつれば、かいま見の人、隠れ見の人隠れ蓑取られたる心地して、あかずわびしければ、御簾と几帳との中にて、柱の外よりぞ見たてまつる。

(枕草子, p.203)

ただし、(3)に示した『枕草子』冒頭箇所には、「かいまみ」はなく、ただ「ありそうな」「それらしい」語として用いられている可能性がある。

4. 『枕草子』のパロディー

『枕草子』をふまえたり、取り入れたりした作品は、平安時代からすでにあり、江戸時代にも複数見られる。『枕草子』と近い時代のものには、「空の雨雲晴れて、ほのぼの明けゆく山際、春ならねどをかし。」(『狭衣物語』, ① p.54) などがある。また、江戸時代は俳諧などに多く影響を与えているのが確認される。今回取り上げた『浮世風呂』の読まれた時代に、『枕草子』が広く知られていたことは、同時期の資料への取入れからもわかる。

5. まとめ

以上、本稿では、『枕草子』のパロディー表現が見られた『浮世風呂』の例を通して、「似ていること」をどのように判断するのかについて考察してきた。特徴的な表現の重なり、近しい音の使用、そしてそれらしい語の使用などが今回のパロディー関係を成り立たせるものであった。なお、パロディーについては、本稿で見たような一部の箇所では「似ている」ということが起きているケースもあれば、文体全体で「似ている」ということの判定が起きることもある¹。今回見てきた音や語句などによるパロディーの分析は、文体や作品のジャンルなど、より大きいサイズの文章のとらえ方にも有効な点があると考えられ、今後、文体把握をしていく際の一助としたい。

引用資料

竹取物語、伊勢物語：片桐洋一・高橋正治・福井貞助・清水好子校注・訳『竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』、新編日本古典文学全集 12、小学館、1994

枕草子：松尾聡・永井和子校注・訳『枕草子』、新編日本古典文学全集 18、小学館、1997

狭衣物語：小町谷照彦・後藤祥子校注・訳『狭衣物語①』、新編日本古典文学全集 29、小学館、1999

浮世風呂：中村通夫校注『浮世風呂』、日本古典文学大系 63、岩波書店、1957

参考文献

今野真二 (2015) 『盗作の言語学—表現のオリジナリティーを考える』、集英社

1 パロディーの話をした際、学生から紹介されたのは『もし文豪たちがカップ焼きそばの作り方を書いたら』(宝島社、2017)である。この本では、様々な文豪に成りきって「カップ焼きそば」の作り方が示されている。「それらしい」表現の違う現れ方もあり、全体で「似ている」と判断できるものも多い。これは今野氏の言うところの「パスティーシュ」にあたる。

尾道市立大学では、地域に開かれた大学をめざし、教育研究活動の一端を地域に還元することを目的として、毎年秋に、オムニバス形式の「教養講座」を開講しています。

本書には、令和元年度に行われた「教養講座」の中からピックアップして研究論文・研究要旨を掲載しております。



橋野 仁史 (はしの ひとし)

熊本県生まれ。尾道市立大学大学院美術研究科油画修了。尾道市立大学助手、助教を経たのち、2018年より現職。国画会での作品発表を中心に活動し、主に植物をモチーフとした絵画作品を発表。主な展覧会・受賞歴に、第82回国展 絵画部奨励賞 / 国立新美術館 (2008年)、三菱アート・ゲート・プログラム / 三菱商事 (2009年) 第88回国展会友賞 (2014年)、個展「橋野仁史絵画展」/ 福山天満屋 (2017,19年)、宝龍芸術大賞展 3等賞 / 宝龍アートセンター (2020年) など。

[研究要旨]

はじめて出会う「国画会」 —始まりから現在—

尾道市立大学芸術文化学部美術学科油画コース講師
橋野 仁史

はじめに

本稿は2019年度教養講座第1回「初めて出会う国画会—始まりから現在—」での内容をまとめたものである。本講座では、私自身が所属する国画会への関心を少しでも広めたいとの思いから、美術団体国画会の歴史をたどりながら、設立から現在までの出来事を中心に紹介した。

国画会が主催する国展は毎年約8万人が訪れる国内で大きな美術団体展のひとつである。展覧会は東京だけではなく、巡回展を名古屋と大阪で開催しており、そのほかにも全国各地では、支部展やグループ展が開催されている。現在、国内には美術団体が300ほどあり、毎年多くの美術団体の展覧会が東京を中心に開催されている。その中の一つに、今年で93年目を迎えた美術団体国画会がある。

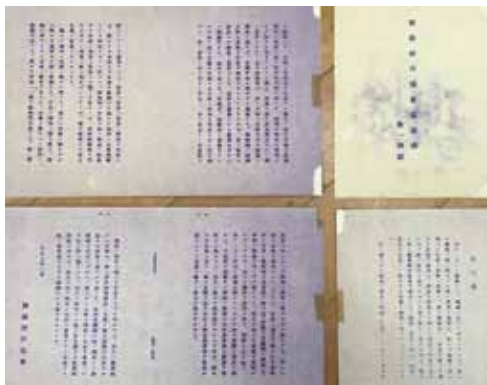
国画会は1926年(大正15年)に第1回が開催され、戦争末期である1945年(昭和20年)に開催できなかった年を除いて、毎年春に開催されている。絵画・版画・彫刻・工芸・写真の5部門で構成されている総合美術団体として活動している。



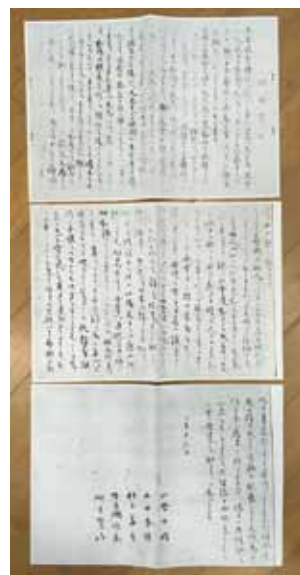
1. 国画会の始まりは「国画創作協会」

現在の国画会は、その前進となる国画創作協会が結成されたのが始まりである。国画創作協会は1918年（大正7年）に日本画の小野竹喬、土田麦僊（他には村上華岳、野長瀬晩花、榊原紫峰）ら学校（京都市立芸術大学）の同級生であった若手日本画家により京都で設立された。展覧会を自らの研究発表の場として考えていた。美術雑誌の記録によると当時の展覧会としては珍しく、完成以前の作品や下図、デッサンなどを作品と合わせるなど、制作過程を含めた展示をしていた。また、設立にあたり宣言書には、理念として「創作の自由を尊重する」と掲げられた。

そのほかにも、設立のきっかけとして、文部省主催による文展の審査に対する不満が大きかったようである。文展とは、国が西洋にならった美術行政の必要性を感じて、文部省が主導する美術行政を行う目的で創設されたもので、文部省としては当時いくつもの流派に分かれた美術界を一つにまとめようとしていた。国が主導する展覧会として、文展は国内で最も注目を集める展覧会だったが、作家にとってはそうした権威の存在に対する不信感から、自由な制作と発表の場を求め文展への出品を辞め、美術団体が設立された。



国画創作協会宣言書



国画創作協会設立理由書

2. 絵画部の誕生から国画会へ

土田麦僊は親交のあった洋画家の梅原龍三郎を国画創作協会に迎え入れて、1925年（大正14年）に第2部として洋画部（現在の絵画部）を設置した。そして翌年の1926年（大正15年）に第5回国画創作協会展が開かれた。同年、一般公募が開始され、公募展初の試みとして出品手数料50銭で出品者を募った。



国画創作協会第一部（日本画部）解散表明と国画会第二部（絵画部）更生の発表

国画創作協会は主に経済的な理由から1928年（昭和3年）、設立からわずか10年で解散することになった。この解散は、国画創作協会を立ち上げた日本画部から表明された。

解散の理由には運営上の経済的やりくりと創作活動との両立の難しさが大きく影響していた。解散後、第2部洋画部の中心人物であった梅原龍三郎は、自らが中心とな



第5回国画創作協会展覧会図録

り会を存続させる発表し、名称を「国画創作協会」から「国画会」と改め、これが今の国画会につながっていった。

3. 草創期

国画会はほぼ昭和の始まりとともに発足し、現在の国画会の土台が築き上げられていった。1931年（昭和6年）には絵画部の中に含まれていた版画を版画部として新たに立ち上げ、美術団体に版画部が設けられたのは、国画会が初めてであった。さらに、1939年（昭和14年）には写真部が新設された。

戦前の絵画部の出来事として、他の団体から会員を迎え入れたことがある。美術団体としてはまだまだ若く、内部の作家たちは力量に欠ける部分もあった。そして、内部の作家に対する刺激を与えながら、展覧会を重ねるごとに会として充実した時期を迎え、世間にも広く認知されるようになった。また、その他に、国画会が当時果たした役割に西洋の作品を特別展示して世間に紹介したことがある。1929年（昭和4年）から9回にわたりルオーやピカソなど海外作家たちの作品を紹介した。この企画を立案して実施し続けることができた背景には、梅原龍三郎と親交のあった美術評論家でコレクターの福島繁太郎の力が大きく関わっている。福島繁太郎は、近代日本における西洋美術コレクター松方幸次郎、大原孫三郎と並ぶコレクターの一人である。当時、福島繁太郎がコレクションしていた一部の作品は現在、ブリヂストン美術館や大原美術館など国内の美術館に引き継がれ所蔵されている。

戦前の団体展を取り巻く状況は、美術団体展の数が増える一方で乱立状態にあった。1929年（昭和4年）の記録によると、10年前までは、主な美術団体が10団体ほどで、都内を中心に美術館や画廊・デパートで開催される大小団体の展覧会回数は合わせて1ヶ月で78回であった。これが次第に展覧会の数が増えて、様々な展覧会を合わせると平均で毎週70回ほどの展覧会が開催されていた。展覧会氾濫期と言われ、取材する記者たちも全てに目を通すだけの時間の余裕を持たない状況であった。こういった乱立時期を乗り越えて国画会は主要美術団体として成長し続けた。



第9回国展、福島コレクション展目録



みづ 第597号 臨時増刊

4. 戦後から現在

昭和とともに歩んできた国画会としては、長い歴史の中で紆余曲折があったようで、会運営継続の危機もあったことが当時の記録からも伺える。その一つに、1950年（昭和25年）に会の中心人物だった梅原龍三郎の退会である。梅原龍三郎の退会は、絵画部だけでなく国画会全体に大きな影響を与え、戦後の国画会は決して良い状況では無かった。このような状況の中、国画会は若手の作品を積極的に紹介するなどして、次世代を担う作家を育てることに力を入れた。当時20～30代であった若手作家の井上悟、佐々木豊、大沼映夫などは、現在も絵画部の中心的な作家として絵画部を牽

引している。

国画会の発足から戦前にかけては、会の体制をしっかりと整えることに力が注がれた。梅原龍三郎を中心として会の基礎固めがなされ5部門体制が確立して、次第に出品数も増えていった。戦後は、国画会の拡大に伴って地方で積極的に支部展も開催されるようになり、会の充実とともに出品者も全国に広がり現在の国画会の形が作られた。



第40回国展の様子

おわりに

美術団体国画会の歴史と展覧会における取り組みなどについて説明した。講座をととして国画会の現状を理解してもらい作家たちの作品を鑑賞するだけでなく長い歴史を含めた会の魅力を伝えることができたのではないだろうか。

現在、団体展は国画会のみならず多くの団体で直面している問題として、若い世代の出品が減り高齢化した団体になっている状況がある。理由はいくつかあると考えられるが、活動の場が増えていたり上下関係に縛られ活動の不自由さを感じるなど、若い世代にとって団体展が作品を評価する存在として魅力を感じなくなっている点がある。ほかにも学生時代に団体展との関わりが持ちにくい状況があるのではないかと。欠点に目を向けられ否定的な意見が多く目立っているように感じるが、当然、団体展側にも問題はあろう。時代とともに団体展を取り巻く環境が変化している状況の中で、国画会として試すべきことや外部に向けて何をどのように発信していけばよいか。国展では、2016年から学芸員や評論家などの美術関係者を招いてシンポジウム開催するなど、いくつかの関連企画が行われている。それらの場で得られた意見を参考にしながら、国画会で活動する利点を今後も考えていくことが必要である。

【主な参考文献】

「第5回国画創作協会展覧会図録」国画創作協会 1925年

「中央美術 第14巻9号」中央美術社 1936年

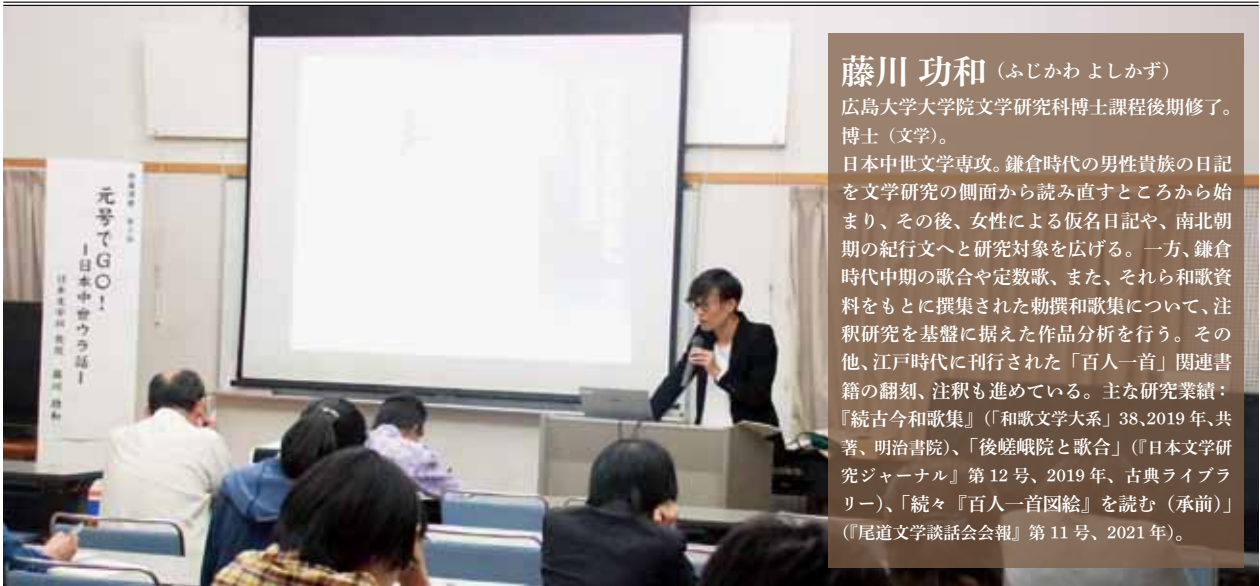
「第4回国展図録」国画会 1929年

「第9回国展目録・福島コレクション展目録」国画会 1934年

「みづゑ 第597号 臨時増刊 FUKUSHIMA COLLECTION」美術出版社 1955年

「国画会一人と作品一」国画会 1966年

「国画会90年略年史」国画会 2016年



藤川 功和 (ふじかわ よしかず)

広島大学大学院文学研究科博士課程後期修了。博士(文学)。

日本中世文学専攻。鎌倉時代の男性貴族の日記を文学研究の側面から読み直すところから始まり、その後、女性による仮名日記や、南北朝期の紀行文へと研究対象を広げる。一方、鎌倉時代中期の歌合や定数歌、また、それら和歌資料をもとに撰集された勅撰和歌集について、注釈研究を基盤に据えた作品分析を行う。その他、江戸時代に刊行された「百人一首」関連書籍の翻刻、注釈も進めている。主な研究業績：『続古今和歌集』(『和歌文学大系』38、2019年、共著、明治書院)、「後嵯峨院と歌合」(『日本文学研究ジャーナル』第12号、2019年、古典ライブラリー)、「続々『百人一首図絵』を読む(承前)」(『尾道文学談話会会報』第11号、2021年)。

[研究論文]

元号を読む

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授
藤川 功和

「元号でGO!—日本中世ウラ話—」という軽薄極まりない題目を立てて、教養講座を担当したのは2019年10月9日(水)のこと。平成から令和に改元されて半年を迎えようとしていた頃であり、元号の出典や考案者の特定など、改元に纏わる話題も一段落していたように記憶している。

ブームに乗った感は否めなかったが、改元の年に教養講座を担当するのも何かの縁と、それまではさして気にも留めていなかった元号について、数ある関連書籍の中から、ひとまず本学図書館で手に取れるものから目を通しつつ準備を進めた。

それらの内、藤井青銅氏『元号って何だ? 今日から話せる247回の改元舞台裏』(小学館新書2019年2月6日初版第一刷発行)は、新元号が発表される二か月前に刊行されており、同書あとがきには以下のようにみえる。

今回の新元号選定のポイント、手続きは、ほぼ平成改元時と同様だと考えられる。すなわち、人文系の碩学^{せきがく}数人が内密に選ばれる。そして「国民の理想としてふさわしいよい意味を持つもの」で「漢字二字」で「書きやすく、読みやすく」、そして「これまでに用いられたものではなく」「俗用されていないもの」で、「出典があるもの」を数案考え提出する。さらにローマ字頭文字が「明治・大正・昭和・平成のM・T・S・Hとは異なるもの」も、おそらく考慮されるだろう。その中から、内閣が選ぶのだ。

もうすぐ、「新元号」が決まる。

果たして、その後発表された新元号「令和」は、上記あとがきの推定とおおむね一致しているのだが、個人的にやや意外に思えたのは、「和」の使用であった。というのも、「和」は平成の前の元

号、すなはち「昭和」で用いられており、「平成」を一つ間に置いて、わずか30年後に再び使用されているからである。

無論、これには先例があって、稿者の研究領域である中世の内、鎌倉時代初期に絞っても、「文治」(1185～1190)→「建久」(1190～1199)→「正治」(1199～1201)、「建仁」(1201～1204)→「元久」(1204～1206)→「建永」(1206～1207)、「元久」→「建永」→「承元」(1207～1211)などの例をあげることができる。また、「和」はもともと元号に使用される頻度が高く、「令和」に至るまでに19回も用いられている(前掲書「元号に使われた漢字ベスト10」で第六位として掲出)。

にもかかわらず、稿者が新元号に「和」は用いられないのではないかと予想していたのは、直近の先行例である「昭和」が「映画『オールウェイズ』の古き良き時代のイメージ」や「ジュリアナ東京の「^{らんもく}爛熟」「お金」のイメージ」とともに、「軍国」の暗いイメージ(前掲書)を併せ持つ、戦乱時(しかも敗戦)の元号であったからである。

新元号の候補で用いられている漢字が、先行して使用された元号と照らし合わせて難とされる事例は、中世史料にも散見する。

一例をあげよう。中山定親の日記『薩戒記』応永三十五年(1428)四月二十七日条には、同日に「正長」と改元されるまでの次第が記されている。この時定親は二十八歳で、正三位、参議で左近衛権中将を兼ねていた。当初要請されていた改元定めへの参仕(二十一日条)は、先例により不要とされたが、「依蒙催」り、「内々引勘年号雑例」し、勘文された新元号候補について、先例に照らし合わせながら、自身の見解を日記に記している。

その内の一つ「文承」について、定親は以下のように引勘する。

文承

永承〈後冷泉〉、天承・長承〈已上崇徳〉、例不庶幾、嘉承有堀河院御事、治承有事、承久尤不快、其後不被用承字、

(本文は「大日本古記録」に拠り、適宜表記を改めた。〈〉は割注)

「承」を含む先例の内、「永承」(1046～1053)は後冷泉天皇在位中の元号であり、永承六年(1051)には、終息まで十二年の長きに渡る前九年の役が東国で起きている。また、「天承」(1131～1132)・「長承」(1132～1135)と連続する二つの元号は、崇徳天皇在位中のものであり、前者は疾疫、怪異により、後者は飢饉、疾疫、洪水により次の元号に改元され、また二つの元号に在位していた崇徳天皇その人も、保元元年(1156)に保元の乱を起し、讃岐に配流され、そのまま同所で没している。

崇徳院は、その死後怨霊化が信じられるようになり、安元三年(1177)七月にそれまでの讃岐院から崇徳院へと追号されるなどしており、定親の「不庶幾」(のぞましくない)の言は、それらのことをも含んでのものであろう。

また、定親は「嘉承」(1106～1108)を引き、同二年には、「御事」一堀河天皇が二十九歳の若さで崩御していることを指摘する。

さらに「治承」(1177～1181)年間には「有事」すなはち、以仁王の挙兵に端を発した源平の争乱が起こっていることを示し、極めつけとして、後鳥羽院が討幕の兵をあげた時の「承久」(1219～1222)を「尤不快」と評しているのである。

定親が「其後不被用承字」と指摘するように、「承」字は承久年間以降、長らく用いられておらず、応永三十五年の改元に際しても、「承」を含んだ「文承」は、結局採用されなかったのである。

例えば、歌人として著名な藤原定家(1162～1241)と同時代を生きた歌人藤原信実(1177頃～1270頃)の編んだ説話集『今物語』には以下のようなエピソードが収載されている。

承久のころ、^①住吉へ^②しかるべき人の参らせ給ひけるに、をりふし、^③神主経国、京へ出でたりけるが、人を走らせて、「住の江殿など掃除せさせよ」と言ひ遣りたりけるに、あまりの^④きらめきに、年ごろしかるべき人々の書き置かれたる歌ども、柱、長押、妻戸にありけるを、皆削り捨ててけり。神主、下りてこれを見て、「こはいかにせん」と、足摺りをしてかなしめども、かひなかりけり。

これを見て、古き尼の書き付けける、

世の中のうつりにければ住吉の昔の跡もとまらざりけり

これは承久の乱の後、世の中あらたまりける時の事也。

(『今物語』四六、講談社学術文庫本《1998年》に拠り、一部表記をあらためた)

〔語注〕

- ① 住吉—住吉大社。現大阪市住吉区。
- ② しかるべき人—ここでは、しかるべき身分の貴人の意。具体的には不明。
- ③ 神主経国—津守経国。文治元年(1185)生～安貞二年(1228)没。住吉社第四十六代神主。『新勅撰和歌集』以下の勅撰集に十二首入集。経国は頻繁に上京しており、定家ら在京歌人たちとも親交があった。
- ④ きらめき—歓待すること。

歌人たちの信仰を集めていた住吉大社の神主経国の上京中に、しかるべき身分の貴人が参詣することになり、経国が人を遣り境内の掃除を指示したところ、勢い余って長年参詣者が柱や妻戸などに書き付けてきた多くの和歌までも削り取ってしまい、戻った経国が嘆くというのが大筋である。経国の悲嘆ぶりを傍観する老いた尼の詠「世の中のうつりにければ住吉の昔の跡もとまらざりけり」は、承久の乱により世が一変してしまったことと、参詣者たちの詠が消し去られたこととの間に、慥かな連関を認めている。

また、傍線部の末尾一文をめぐっては、学術文庫本が〈解説〉で以下のように指摘する。

末尾の一言によって、急に深い色合いを帯びるかのようである。『今物語』の中で、「世の中」として政治的・社会的状況について言及するのは、ここだけである。単に、風雅を解さない者への批判や尚古思想を述べる説話ではなく、承久の乱によって勢威を得た武家や「しかるべき人」の権勢、乱を経てしたたかに生き続ける公家社会、その間の人々の有為転変や自身の人生の時間の流れなど、一瞬さまざまなことを読者に想起させる一文である。なかでも、本文中には明示されていないが、承久の乱の直前に住吉に御幸し(あるいは戦功を祈るためであったかも知れない)、乱後は破れて隠岐に配流され、そこで望郷と怨念のうちに生涯を閉じた後鳥羽院の存在が、最後の一文によりかすかに浮かび上がってくるように思えるのは、深読みに過ぎるだろうか。

そのような大事が出来た時の元号で用いられていたからであろうか、下記の如く、「承久」以前には、併せて19例見える「承」「久」を用いた元号は、長らく影を潜め、再び使用されるのは、傍線部の如く、いずれも江戸時代になってからであった。

〔承〕

承和(834～848)、承平(931～938)、永承(1046～1053)、承保(1074～1077)

承暦(1077～1081)、承德(1097～1099)、嘉承(1106～1108)、天承(1131～1132)

長承(1132～1135)、承安(1171～1175)、治承(1177～1181)、承元(1207～1211)

承応(1652～1655)

〔久〕

長久 (1040～1044)、延久 (1069～1074)、永久 (1113～1118)

久安 (1145～1151)、久寿 (1154～1156)、建久 (1190～1199)

元久 (1204～1206)、文久 (1861～1864)

さて、「令和」に立ち戻ると、「和」は先にも触れたように「昭和」も含めて繰り返し使用されており、「和」のみで直ちに特定の元号を想起することはあまりないのかもしれない。また「和」は、「平和主義」という戦後日本が掲げる理念にも関わる言葉であり、今後あらたな元号が考案される場合にも、特に禁忌されることはないであろう。

一方で、「昭」の字はというと、前掲書が指摘する如く、「昭和」で初めて用いられた字であり、当然、今のところ「昭」の字から想起される元号は「昭和」のみである⁽¹⁾。

これも前掲書が指摘する如く、「昭和」は63年余りの長きに渡るが故に、①「戦前」②「三丁目の夕日の昭和」③「バブルの昭和」など、多様なイメージを持つが、「昭和」は〈かつて日本が戦争を起こし、そして敗れた時代〉として、日本国が「平和主義」を掲げる限り一体的に語られるであろうし、また、それ故に「昭」を用いる元号は、今後も「昭和」が唯一の例であり続けるのではないかと、稿者は秘かに思量している。

「昭」同様、「令」も新元号で初めて採用されており、「昭和」「平成」「令和」と、初採用の文字を含む元号が続いている。

「承久」の如く、コロナ禍によりそれまでとは世が一変してしまった感のある「令和」だが、これからどのような時代となり、そして、後世に吉凶いずれの例として引かれるのであろうか⁽²⁾。

〔注〕

(1) 『薩戒記』前引二十七日条にも「昭字、本朝未被用之」と見える。

(2) 例えば、定親は、前引二十七日条で、新元号となる「正長」について、「正曆〈一条〉、・正治〈土御門〉、・正応、〈以上吉例也〉」と記している。

【参考文献】小倉慈司氏『事典 日本の年号』（2019年 吉川弘文館）



木村 文則 (きむら ふみのり)

奈良先端科学技術大学院大学情報学研究科博士後期課程を研究指導認定退学（のち2007年に学位取得）ののち、同志社大学文化情報学部 実習助手、立命館大学情報理工学部 助手および専門研究員を経て、2015年より尾道市立大学経済情報学部にて、2018年より准教授。専門分野は情報検索、テキストマイニング、人工知能など。

[研究要旨]

人工知能を覗いてみよう

尾道市立大学経済情報学部経済情報学科准教授
木村 文則

人工知能がここ数年で技術的革新を遂げており、我々の社会を大きく変えることは明白である。しかしながら、人工知能の正体が不明瞭であるため、どこまで影響を受けるのかが予測しづらい。そこで本講義において、「人工知能の輪郭」を掴んでもらい、正しく恐れることが出来るようになることを目指した。

・人工知能にまつわるウワサの真偽

「人工知能が人間を超える?」「人工知能が仕事を奪う?」などといったことが、まことしやかに言われるようになってきている。結論から言うと、これらは誇張である。部分的には真実と言えるが、人間の能力の全てを人工知能が代替することは、ここ20年程度では不可能である。人間と人工知能のそれぞれに得意・不得意があり、役割分担が進んでいくと思われる。つまり、人間がやるべき仕事はいくらでもあり、機械が出来ることにマンパワーを割く余力は無い。特に少子高齢化を迎える日本は、人工知能の普及による恩恵を受ける国の一つと言ってよい。

・人工知能の仕組み

今、猛威をふるおうとしてる人工知能、すなわちディープラーニング（深層学習）は、人間の脳の仕組みを真似して作られている。人間では、目などの感覚器から入力された信号が、脳の神経細胞

を伝達していくうちに徐々に情報が抽象化され、その結果を基に様々な判断を行う。また、一度得られた判断結果と事実との誤差を基に、情報伝達の強度の調整を行うことにより、誤差が極力少なくなるようにする。これが「学習」である。

この仕組みを模倣して作られたのが、ディープラーニングである。大量の情報（例えば画像）を学習データとして入力し、判断結果として得られた出力情報が、どれだけ正しく判断できたかを評価し、間違い（誤差）があれば、情報伝達の強度の調整を行う。これを何度も繰り返すことにより、複雑な判断も正確に行うことが出来るようになる。

・人工知能の社会への影響

もはや、あらゆる製品において「人工知能を使っています」と言っておけばよいような状況となっており、人工知能に一切かかわらずに生活することは不可能である。現状では、既存の製品の「質を向上する」程度であるが、今後は我々の生活スタイルを大きく変えることも予想される。

その一つとして、「クルマの自動運転」が挙げられる。2030年以降には、完全自動運転が実用化する見込みであると言われている。つまり、クルマの免許を持っていなくても、クルマに乗って移動することが可能になる。これが実現すれば、クルマの運転ができない高齢者であってもクルマで自由に移動できるようになる。その結果、高齢者の社会参加が容易となり、これまでの社会活動が大きく変わる可能性がある。

また、高速道路などでの条件付き自動運転は実用化し始めている。高速道路などでの完全自動運転が実現すれば、物流業界に多大な貢献が予想され、もしかしたらトラックドライバーは長距離を走らなくても良くなるかもしれない。もっとも、高速道路を降りた後は誰かが運転しなければならないが。

このように、人工知能は我々の社会に大きな変化をもたらすと思われる。しかしそれに応じて、我々の活動もこれまでは考えもつかなかったことが実現出来るようになる可能性が開ける。その可能性を見つけられるよう、我々も人工知能の可能性を追っていく必要があるのではないかと思われる。

The image shows six educational presentation slides arranged in a 2x3 grid, all titled '教養講座' (Lecture). The slides are as follows:

- Slide 1 (Top Left):** Title: 人工知能を覗いてみよう (Let's look at AI). Subtitle: 尾道市立大学 経済情報学部 准教授 (Niihama University, Faculty of Economics and Information Studies, Associate Professor). Name: 木村 文則 (Kimura Fumino).
- Slide 2 (Top Middle):** Title: 講師紹介 (Lecturer Introduction). Content: 木村 文則 (Kimura Fumino), 経済情報学部 准教授 (情報コース) (Associate Professor, Faculty of Economics and Information Studies, Information Course). Research Theme: いわゆるビッグデータ (いわゆるビッグデータ) - 情報検索、情報推薦、テキストマイニング など (Information Search, Information Recommendation, Text Mining, etc.). 「人工知能」はじめました (We started with "AI").
- Slide 3 (Top Right):** Title: 人工知能 (AI). Content: 手法の一つ (One of the methods) - ニューラルネットワーク (Neural Network) - 進化 (Evolution) - 深層学習 (Deep Learning) - ディープラーニング (Deep Learning).
- Slide 4 (Bottom Left):** Title: 本日の話題 (Today's Topics). Content: 人工知能に関する雑談 (Casual talk about AI) - 人間を超える？ (シンギュラリティ) (Surpassing humans? (Singularity)) - 仕事を奪う？ (Will it take jobs?) - 人工知能とは (What is AI?) - ニューラルネットワークの仕組み (How the neural network works) - 社会への進出 (例: 車の自動運転) (Entry into society (Example: Car autonomous driving)).
- Slide 5 (Bottom Middle):** Title: 人工知能が人間を超える？ (Will AI surpass humans?). Content: シングularity (Singularity) - 「技術的特異点」(Technological Singularity) (Technical Singularity) - 人間と人工知能の能力が逆転する時点 (Point where human and AI capabilities reverse) - 人工知能の種族レイ・カーツワイル博士が提唱 (Proposed by Ray Kurzweil, AI expert) - 人工知能が自らを改良し、人工知能が人工知能を生み出すことが可能に (AI can improve itself, and AI can create AI) - 正確には「\$1,000で半に入るコンピュータの性能が全人類の脳の計算性能を上回る時点」 (More precisely, "the point where the performance of a computer that costs \$1,000 reaches half of the performance of the entire human brain") - 2045年に起こると予想 (2045年問題) (Expected to occur in 2045 (2045 problem)).
- Slide 6 (Bottom Right):** Title: 機械が奪う職業ランキング (Ranking of jobs taken by machines). Content: 1. 小売店販売員 (Retail sales staff), 2. 会計士 (Accountant), 3. 一般事務員 (General office staff), 4. セールスマン (Salesman), 5. 一般秘書 (General secretary), 6. 飲食カウンター接客係 (Food counter service staff), 7. 商店レジ打ち係や切符販売員 (Store cashier or ticket seller), 8. 箱詰め積み降ろしなどの作業員 (Worker for packing, loading/unloading, etc.), 9. 帳簿係などの金融取引記録係 (Accounting clerk, etc.), 10. 大型トラック・ローリー車の運転手 (Truck/Tram driver), 11. コールセンター案内係 (Call center guide), 12. 乗用車・タクシー・バンの運転手 (Car/Taxi/Bus driver), 13. 中央官庁職員など上級公務員 (Senior government employees, etc.), 14. 調理人 (料理人の下で働く人) (Cook (working under the chef)), 15. ビル管理人 (Building manager). Source: 尾道市立大学 経済情報学部 准教授 (尾道市立大学 経済情報学部 准教授) (Niihama University, Faculty of Economics and Information Studies, Associate Professor). 「THE FUTURE OF EMPLOYMENT: HOW SUSCEPTIBLE ARE JOBS TO COMPUTERIZATION?」を基に作成 (Based on "THE FUTURE OF EMPLOYMENT: HOW SUSCEPTIBLE ARE JOBS TO COMPUTERIZATION?").

人工知能が仕事を奪う？

- ・半分正しいが、半分間違い

人工知能に奪われる仕事はある

でも、仕事は無くならない

人工知能の定義

- ・大まかには「**知的な機械、特に、知的なコンピュータプログラムを作る科学と技術**」
- ・定義は研究者によって異なっている
 - ・そもそも『知性』や『知能』自体の定義がない
 - ・「人工的な知能」を定義することもまた困難

引用者 平成28年版 情報通信白書

「知的」≠ 人間の知能（に近い）

人工知能の2つのアプローチ

- ・人工的にコンピュータなどで人間と同様の知能を実現させようという試み、或いはそのための一連の基礎技術

Wikipedia「人工知能」

1. 人間と同様の知識を再現
 - ・言葉の意味の理解、推論、・・・
2. 機械学習（→ 判別・判断）
 - ・データから反復的に学習し、そこに潜むパターンを見つけ出す
 - ・学習結果から、将来を予測する（ことも）

あえて、定義してみる

- ・近年注目されている「人工知能」
 - ・人間が逐一指示しなくても、何らかの処理や分析を行う
 - ・全ての条件をプログラムに記述しなくてもよい
 - ・一定の方針は示す必要はある
 - ・大量のデータを分析し、何らかの情報を抽出できる
 - ・抽出する特徴を自動的に決定
 - ・類似点の発見、分類、判別、推定 など
 - ・新たなデータにより動的に学習できる

真実は認めます

人間らしい判別・判断

- ・どうやって実現すればよい？

人間の仕組みを真似すればよいのでは

- ・人間の脳の仕組みを作ろう！

神経細胞（ニューロン）

ニューロンの構造とそのモデル
http://www.its.uhp.ac.jp/~peter/np-01-3

脳の神経回路の活動
http://www.its.uhp.ac.jp/~peter/np-01-3

ニューロンモデル

- ・入力
 - ・樹状突起から入る刺激
 - ・全樹状突起の刺激の総和=ニューロンへの刺激
- ・しきい値（閾値）
 - ・しきい値を超えるとニューロンが発火
 - ・他のニューロンへ刺激を伝達
- ・出力
 - ・発火 → その値を伝達
 - ・非発火 → 出力=0

ニューラルネットワーク（NN）

- ・人間の脳の神経回路の仕組みを模したモデルの機械学習
- ・現在では、実際の脳の構造とは異なっていることが判明している
- ・人工ニューロン（ノード）がシナプスの結合によりネットワークを形成
- ・学習によってシナプスの結合強度を調整
- ・エッジ（結合）の重みを調整

ニューラルネットワークの模式図

入力層 隠れ層 出力層

弱いシナプスは省略

ニューラルネットワークの判別処理イメージ図

花 [0.87]
雑草 [0.13]

各ニューロンの信号の強さ

- ・前階層の全ニューロンからの入力信号の合計

信号1, 2, 3

重み1, 1 重み1, 2 重み1, 3

信号1, 2, 3

信号1, 2 = 重み1, 1 × 信号1, 1 + 重み1, 2 × 信号1, 2 + 重み1, 3 × 信号1, 3

出力値の計算

花 [0.87]
雑草 [0.13]

すべてのエッジの重みがちょうどよい値に調整できればよい

誤差逆伝搬法

花 正解 [1.00] 誤差 [0.13]
雑草 [0.13] [0.00] [-0.13]

誤差逆伝搬法

- ・誤差を前の階層に伝達
- ・誤差が解消するように、各エッジの重みを（少しずつ）調整
- ・誤差が（極力）無くなるまで繰り返す

ディープラーニングの模式図

入力層 中間層が何層にもなる（3層以上） 出力層

ディープラーニング

- 学習データからシステムが**自動的に特徴を抽出する**
 - 何に着目すればよいか教える必要がない
 - どんな特徴を利用すれば識別できるのかを自動的に学ぶ
- 似た特徴を持つデータは、同じノードを通るようになる
- 同じノードを通る理由を理解しているわけではない
 - 理由づけ・ラベル付けは人手で

人工知能の応用例

- 画像・映像データ
 - 自動運転、不良品検知、顔認識技術
- テキスト（文章）データ
 - チャットボット（自動会話プログラム）、自動翻訳、SNSデータ分析
- 音声データ
 - 音声認識、音声感情分析
- 数値データ
 - 病気の発症率や株価の予測

人工知能は人間を超えるか？

- 特定された領域においてはあり得る
 - 例）チェス、将棋、囲碁
- 「領域の限定」自体はできない
 - フレーム問題
 - 対象が無限にあり得る中から、必要な検討対象だけに絞り込むこと
 - 人間が最初にそれを行う「問題設定」が人間の仕事

人工知能の得手・不得手

- 得意な領域
 - 論理的に分析し、大量の情報から統計的に考え、高速回転で何度も何度も実施
 - 単純作業や、あまり考えなくてもできる仕事
- 苦手な領域
 - 創造的に考えることがより必要な領域
 - 身体性や感情が求められる領域
 - クリエイティブな仕事
 - サービス
 - コミュニケーションが必要とされる仕事

人工知能に仕事を奪われるのか

- 人工知能が得意な処理は、人間の代わりによってくれる
- 人工知能が苦手な処理は、人間がやるしかない

日本の場合

- 少子高齢化
 - 慣性的な人手不足
 - 機械が出来る仕事に人手を割く余裕は無い

人工知能の産業への応用

産業	2016年	2017年	2018年
製造業	100億円	150億円	200億円
小売業	80億円	120億円	180億円
金融業	60億円	90億円	130億円
医療業	40億円	70億円	110億円
教育業	20億円	40億円	70億円
その他	10億円	20億円	40億円

自動運転に必要な機能

- 認知
 - 搭載された多数のカメラやセンサーで対向車、歩行者、道路標識、運転速度など
- 判断
 - 認知した情報をもとに、行うべき操作を決定
 - 行う操作、経路選択など
- 操作
 - 車輪やモーターなどの制御

自動運転のレベル分けについて

図1 究極の自動運転社会実現へのロードマップ

自動運転の実現時期

- 2020年ごろ
 - 高速道路での（条件付き）自動運転（レベル3）
 - 限定地域での自動運転（レベル4）
 - 高速道路でのトラックの隊列走行（レベル2）
- 2025年ごろ
 - 高速道路での完全自動運転（レベル4）
- 2030年以降～
 - 完全自動運転（レベル5）

本日のまとめ

- 人工知能
 - 人間の脳をマネした判別の仕組み
 - ニューラルネットワーク
 - ディープラーニング（深層学習）
- 過去の情報から、有用な情報を抽出
 - 大量の（過去の）データから学習
- 新しいことを創造するのは苦手
 - 人間と人工知能の役割分担



前田 謙二（まえだけんじ）

博士（法学）

尾道市立大学 経済情報学部教授
税法を担当。どんな取引もすべて税金に影響するので、ある意味最も身近な法律である税法を学生と一緒に勉強している。主な研究分野は国際課税であり、海外取引における租税回避の問題などに対してどのように対処すべきか、という研究などを行っている。

〔研究要旨〕

税金戦争の現状 （講演の趣旨）

尾道市立大学経済情報学部経済情報学科教授
前田 謙二

「税金戦争の現状」というテーマで、過去から現代の税金制度の仕組みや最新の課税制度の問題点まで歴史的な流れを踏まえて、特に国際的な課税関係を中心にお話ししたいと思います。私たちが今直面している国際的な課税問題は、第一次世界大戦後の国際連盟等を中心にした国際課税の枠組みが有効でなくなり、100年ぶりに新たな国際的な課税制度を構築する必要に迫られていることです。ここ1年程度でOECDなどにより新たな国際的な課税ルールが提案されようとしており、新しいルールが出来れば日本の税制も変更され、その結果日本の税収などの変化により私たちの生活にも大きな影響が生じると思われます。現在の国際的な課税ルールのどこが問題なのか、なぜこのような提案が必要なのかを、今日は歴史的な考察を踏まえ、一緒に考えてみたいと思います。

まずは、歴史的に古い「国と国民」が税金で争う場面を考えて見ましょう。西欧における中世の領邦領主の領主権による課税から、絶対王政における主権概念による一方的・強行的な課税の時代では、大多数の農民は領主や王に一方的に税を徴収される時代でした。その後、イギリスの名誉革命、フランス革命やアメリカ独立革命などを経て、民主的な社会が成立し議会在議院が課税権を持つことになり、民主主義国家では憲法等で国民が国会で自ら決めた法律によってのみ税金を払う義務を負うことを原則としました。この原則は租税法律主義といい、戦後民主主義を取り入れた日本における現在の税制の基本的な原理になっています。なお、資本主義社会では私有財産制をベースにした無産国家が基本ですので、治安維持や国防などの費用は国民より税金を徴収することになります。したがって、資本主義社会では税金が必要であり、その税金は民主主義社会において租税法律主義により、すべて国民自らが作る法律によらなければならないことになります。

次に、経済が国際化してくると、国際取引による所得にどの国が課税するのか、という国際課税

の問題が生じ、「国と国」とが税金で争う場面を考えてみましょう。原則として、国の法律はその国の主権の及ぶ範囲でしか効力がありますが、各国が自国の主権に基づき、自由に課税のルールを決めることになります。そのような原則の下で、各国がバラバラに自国の課税権を行使すれば、同じ国際取引の所得に対して各国が二重、いや三重にも課税することが生じます（逆に、どの国にも課税されないことも生じ得ます）。企業が国内取引だけなら1国の課税で済みますが、国際取引を行なえば二重課税を受けるという状況を放置すれば、企業が国際取引を行なう上で税金が障害となります。また、外国法人への課税方法の違いなどは、戦争の原因にもなりかねません。そこで、第一次大戦後、このような各国での課税の違いを調整するために、国際連盟などが中心となり作った国際的な課税ルールに基づく租税条約を各国で締結することが行なわれました。例えば、この当時における国際的な事業取引の課税ルールは、外国法人等に課税するには自国に支店等（以下、「PE」という）がない限り課税出来ないというものでした（「PEなければ課税なし」）。たとえば、このルールは、外国法人が日本で日本支店等を設けてジープの販売をした場合には、その儲けに日本が課税するというものです。逆に、外国法人が日本法人にジープを輸出して儲けてもその儲けには日本は課税しないというものです。考え方としては、日本が外国法人に課税するには、日本との何らかの繋がり（ネクサス）が必要なので、そのネクサスとして日本支店等を基準としたものです。このように第一次世界大戦後に作られた国際的な課税ルールが基本的には現在まで適用されています。

しかし、もっと経済の国際化が進展し、各国に子会社を持つ多国籍企業グループが形成されますと、米国企業を中心に各国の税制の相違点を利用した国際的租税回避が行なわれるようになりました。「租税回避」とは、税法に違反する脱税とは異なり、税法規定の抜け道を行くような税法では禁止されていないが法律の予定していない取引を行なって、税金を回避することをいいます。たとえば、多国籍企業の国際的租税回避として、税率の高い国にある親会社の所得を税率の低い国にある子会社へ移転させるように、取引価格を恣意的に設定するようなことも行なわれます。このような取引が増加してきますと、各国は自国の課税所得を死守するために、租税回避防止規定（たとえば、移転価格税制など）を新たに法制化して対抗するようになり、「国と国」との税金戦争が激化してきました。このような国際的租税回避への対策はどうしても後手に回り、新たな法律で発見した租税回避の手口を防げば、多国籍企業はすぐにまた新たな法律の抜け道を探し出し、新しい手口で租税回避を行なうという、悪循環になっています。また、経済における無形資産の重要性の高まりにより、多国籍企業が税率の低い国などにグループ企業の機能（無形資産）などを移転することが容易になったため、逆に各国は法人税率を下げることで有力企業の自国への誘致を競うはめに陥っています。

そして、経済のIT化及びデジタル経済の発展なども加わり、多国籍企業の国際的租税回避も大規模なものになり、現在では多国籍企業は世界中のどの国にもあまり税金を支払わないスキームを構築できます。たとえば、アップルやグーグルなどは国際的租税回避を進めることで、他の企業の半分以下の税金しか納付していないのが現状です。このような状況になりますと、「国対多国籍企業」とが税金で争う場面となってきています。今までは各国が自国の税金を多くしようと他国と争っていましたが、現在ではどの国も国際的租税回避を進める多国籍企業から税金が取れないという事態に陥っています。今まで多額の税金を納税していた多国籍企業の納付額が減少するという事は、その国における国民サービスのレベルを落とさないようにするには、その他の納税者から税金を集めるしか方法がありません。つまり、多国籍企業ではなく、その国で働く一般的なサラリーマンなどへの増税や消費税率を上げるなどの方法で税収を上げるべく対処することになります。このように国際的租税回避を行なう多国籍企業に対しては、既存の国際課税のルールでは対応出来ないのが

現状です。逆にいえば、このような多国籍企業が既存の国際課税のルールを利用して、国際的租税回避を行なっていることとなります。デジタル経済において第一次世界大戦後に国と国とが争わないように作った事業所得に関するルールである「PEなければ課税なし」というルールでは、今まで課税出来ていた消費者がいる国では課税出来なくなります。たとえば、法人税のない国のグループ会社から、電子データで楽曲を配信し、日本の消費者が携帯電話でデータ受信し、楽曲を購入しクレジットカードで代金を支払う取引を想定してください。この取引では、外国法人は日本に支店などではなく事業を行えますのでその儲けには日本は課税出来ません。また、その外国法人のある国では法人税がありませんのでその国でも課税されず、結局どこの国にも課税されないこととなります。昔のビジネスモデルなら、外国法人は日本子会社を通じてCDを日本の消費者に販売することで、日本子会社が日本にその所得に対する税金を納付していたはずですが、現在では同じように外国法人は商売していますが、消費者がいる日本へ税金は入ってこないのです。このようなことが実際に起こっているのが現実です。大変なことが起こっており、しかもそのことが皆さんの日々の生活に直結している問題（今後の増税など）となります。

さあどうでしょうか。幸いなことに、今まで税金を取り合っていた各国は、どこにも税金を納めない多国籍企業に対して、団結してこのような多国籍企業に課税する新たな国際的なルールを作ろうとOECDを中心に話し合いを進めています。今となつては、各国は多国籍企業の所得を奪い合う立場になく、互いに少しでも税金を分かち合う仲間ということになり、やっと100年ぶりに国際課税のルールを基本的に見直すことが出来る機運が高まってきました。2020年末の合意に向けて、①デジタル経済などへの課税として、消費者がいる国が課税出来るルールの作成、②各国に対して実質的な最低法人税率の適用、というような点の話し合いが行なわれています。①に関しては、多国籍企業への全世界的な所得をベースに消費者のいる国に所得を一定の方式で配分するという考え方が導入されています。このように、各国が主権に基づいて自国の税金を主張するのではなく、全世界の所得を各国で合意によって配分するということが想定されています。宇宙人が地球に侵略してきた場合には、地球連邦政府が結成されるかも知れません。現在でも、米国と中国との覇権争い、北朝鮮問題やテロなど、国際社会では各国の利害関係の対立が深刻ですが、税金の世界である意味、地球連邦政府のような発想が出てきているのには注目する必要があると思います。何十年前に、このように企業の全世界所得を各国で配分するという理論なども議論されたことはありましたが、そんな現実性のないものはほとんど相手にされませんでした。しかし、今OECDで実際に最終合意に向けて議論が行なわれており、その結果も出る予定です。もちろん、各国の思惑の違いもあり、このような新しい国際課税のルールが合意出来るのかはまだ未確定ですが、是非皆様も注目していただければと思います。

(2019年10月26日現在)



森本 幾子 (もりもといくこ)

専門は、日本近世・近代の商品流通史研究。主な研究対象地域は、阿波国撫養（徳島県鳴門市）、大阪（大阪市）、尾道などで、おもに幕末・明治期の商家経営と当該期の市場構造についての研究がメインテーマである。その他、商家相互の贈答交換や商人による地域社会への富の還元方法など（文化の視点から）も経済的取引関係と合せて調査している。

〔研究要旨〕

尾道町の古文書を読む —江戸時代の暮らしを感じる—

尾道市立大学経済情報学部経済情報学科准教授
森本 幾子

本講座は、江戸時代の古文書を解説しながら、尾道の商取引の一つの特徴を「為替金」貸与の事例から紹介しました。

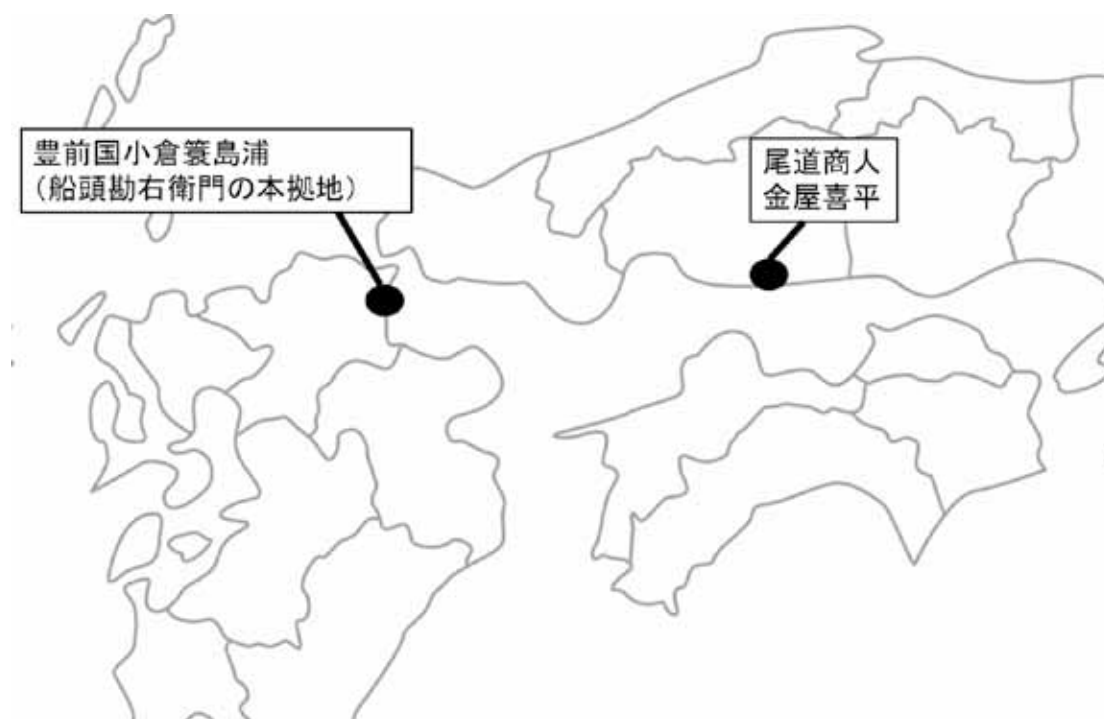


(写真①)「乍恐奉歎上候口上之覚」(広島県立文書館所蔵青木茂氏旧蔵文書)

講座で使用した古文書は、本学の前身尾道短期大学の教員で、『新修尾道市史』(既刊)を執筆された青木茂氏が所蔵されていたものです(写真①参照、広島県立文書館所蔵青木茂氏旧蔵文書)。

文書のタイトルは、「乍恐奉歎上候口上之覚(おそれながらなげきあげたてまつりそうろうこうじょうの

おぼえ)」と記され、内容は、尾道に塩鯛を売りにやってきた豊前國小倉（現在の福岡県北九州市小倉）箕島浦の廻船権現丸の船頭勘右衛門が、文久2年（1862）、尾道商人の金屋喜平を相手取って、尾道町奉行所に対して行った訴訟となっています。具体的な内容を現代語訳し、訴訟を行った豊前國小倉の勘右衛門の立場からまとめてみると、以下の①～⑦のようになります。



(写真②)

- ①私（小倉の勘右衛門）は、昨年の文久元年（1861年：江戸時代末）10月9日、塩鯛1万3,445枚を桶に入れ、尾道商人の金屋喜平へ預けて置き、金屋から為替金25両を借用して、豊前國小倉へ帰りました。
- ②同年の12月22日、再度尾道にやってきた際、私（小倉の勘右衛門）が、尾道商人の金屋喜平に対して、「この前私が尾道に来た時（10月9日）、あなたに預けておいた塩鯛は、どれくらいの値段で売っていただけましたか？」とたずねたところ、尾道商人の金屋喜平は、「ああ、それなら、鯛一枚につき、1分5～6厘くらいで売りましたよ。」と言いました。
- ③尾道商人金屋の発言を聞いた私（小倉の勘右衛門）は、金屋に対して、「私（小倉の勘右衛門）が持ってきた塩鯛を、そのように安価で売られてしまっては、私にとって大きな損失になります。この塩鯛の販売価格について、あなたは、どのようにお考えなのですか？」と詰め寄りました。
- ④私（小倉の勘右衛門）の問いかけに対して、尾道商人の金屋喜平は、「あなた（小倉の勘右衛門）が塩鯛を持ってきて以降、だんだん塩鯛が傷んできたため、これではあまり高く売れないと思って、安く売ったのですよ。」と回答しました。

⑤そこで、私（小倉の勘右衛門）の方から、尾道商人の金屋喜平に対して、「塩鯛が傷んでいたというのなら、そのうち少しだけでも残しておいて（証拠として）見せてくださってもよいはずなのに、残らず売り払われてしまったとは。そのようなことを言われては、私は、地元の豊前國小倉へ帰国もできないので、何とかしてくださいよ。」と頼み込みました。

⑥このような私（小倉の勘右衛門）の問いかけに対して、尾道商人の金屋喜平は、「あなた（小倉の勘右衛門）が積み送ってきた塩鯛については、尾道濱（浜）法で売捌いたのです。これ以上文句があるなら、御上様（尾道を管轄している尾道町奉行所）へ訴えるなり何なり、勝手にしたらいいでしょう。それではよろしく。」などと、理不尽なことを言って去ってしまいました。

⑦これ以上尾道商人の金屋が、自分（小倉の勘右衛門）と話し合いをしてくれないので、どうか、尾道町奉行様の格別のご配慮を以てご判断いただき、私の塩鯛が安く売られてしまったことについて、尾道商人の金屋喜平に対して賠償を求めますので、適切な処置をお願いします。

それでは、どのようなことが問題となって豊前國小倉の勘右衛門は、訴訟を行ったのでしょうか。まず、豊前國小倉の勘右衛門は、自分の取引商品である「塩鯛」1万3,445枚を、尾道商人の金屋に「販売」したのではなく、それを担保として「預け」、尾道商人の金屋から「為替金」25両を借用した、と記されています。この部分に、当時の尾道における商取引の重要なポイントがあります。当時、尾道をはじめ経済的發展を遂げた湊町では、豊富な資金力をもとに、他国の取引先商人に対して、担保となる商品と引き換えに、資金を貸すという商取引がさかんに行われていました。また、この古文書からは、当時、北九州地域と尾道との魚取引（塩漬けにして長持ちさせている）が、海が荒れる12月においても、活発に行われていたことが想像されます。

史料では、尾道商人の金屋喜平は、小倉の勘右衛門から預かって置いた塩鯛を、尾道の消費者に安価に販売していたことが分かります。小倉の勘右衛門が、金屋に塩鯛の販売値段をたずねたのは、塩鯛を担保として、先に25両もの大金を金屋喜平から借りており、金屋が販売した代金によって借金の返済を賄うためでもありました。したがって、小倉の勘右衛門としては、少しでも高値に販売してもらう方が、尾道商人の金屋からの借金返済が早期に完了するのです。

ところが、尾道商人の金屋は、「（小倉の勘右衛門から）預かっていた塩鯛が傷んできた」という理由で、尾道町の人々に塩鯛を「安価」で販売しています。これは、小倉の勘右衛門からすれば迷惑な行為ですが、尾道町の人々（消費者たち）にとっては、塩鯛が安価に入手できるという点において恩恵がもたらされています。このように、委託販売のような形態をとる商取引においては、商品の預け先の商人（ここでは尾道商人の金屋喜平）の意向が、商品の販売価格に大きく影響することを示しています。

さらに、このような事例からは、他地域の商人に対して多額の融資をし、その返済を長期化させることによって、尾道商人が取引上の（金融的な）優位性を保とうとしていることもうかがえます。

そして、興味深いのは、尾道商人の金屋は、小倉の勘右衛門に対して、勘右衛門の塩鯛を「尾道濱（浜）法」で販売したことを強調している点です。この「尾道濱（浜）法」が何を指すのか、現在のところ不明ですが、そのような商取引上の慣行があったのでしょうか。尾道商人の金屋は、「尾道濱（浜）法」で販売したことによって、自分の販売価格の正当性を示し、小倉の勘右衛門に対して、

賠償をするつもりは全くないと告げています。

それでは、訴えられた尾道商人の金屋がこのような強気な態度でいられたのはなぜでしょうか。当時、このような商取引上のトラブルは頻発していましたので、殺害・盗みなどでない限り、尾道町奉行所は、ほとんど「内済」（原告・被告双方の話し合いで解決させること）の判決を下すことが多かったと考えられます。つまり、尾道商人の金屋は、たとえ尾道町奉行所に訴えられても、結局は当事者同士の内済になることも想定の上で、他地域の商人に対し、優位な立場を貫いていたのではないのでしょうか。また、日常的に尾道商人と結び付きの深い尾道町奉行所が、他国の商人の利害を優先するのは余程のことがない限り難しかったとも考えられます。

このように、実際に起こった商取引上のトラブルを、残された古文書を読みながら考えることは、地域経済の特徴を理解する近道であると言えるでしょう。本講座は、その試みの一環でもあります。

令和元（2019）年度 教養講座カリキュラム

回	日 時	演 題	講 師
第1回	10月2日（水） 18：30～20：00	はじめて出会う「国会会」—始まりから現在—	尾道市立大学 美術学科講師 橋野 仁史
第2回	10月9日（水） 18：30～20：00	元号でGO！—日本中世ウラ話—	尾道市立大学 日本文学科教授 藤川 功和
第3回	10月16日（水） 18：30～20：00	人工知能を覗いてみよう	尾道市立大学 経済情報学科准教授 木村 文則
スペシャル DAY	10月26日（土） 13：00～16：15	第1部 どうなるの？今の税金戦争の行方は	尾道市立大学 経済情報学科教授 前田 謙二
		第2部 尾道町の古文書を読む—江戸時代の暮らしを感じる—	尾道市立大学 経済情報学科准教授 森本 幾子

令和元（2019）年度 教養講座アンケート集計

尾道市立大学 教養講座（第1回）	
日 時	令和元（2019）年10月2日（水）18：30～20：00
会 場	しまなみ交流館 大会議室

演 題	はじめて出会う「国画会」—始まりから現在—
講 師	橋野 仁史（尾道市立大学美術学科講師）
講座の概要	日本では美術団体というのが300も400もあり、毎年多くの美術団体の展覧会が開催されています。その中の一つに、今年で93年目を迎える歴史のある美術団体「国画会」があります。今回は、私が所属している美術団体「国画会」の歴史や活動内容について紹介します。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	16名
アンケート回答者（回収率）	12名（75%）

講座について					
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	無回答
4	5	1	0	0	2

☆ご意見・ご感想（抜粋）

- ・聴講されておられる方々の、マナーの良さに学びました。（60代男性）

令和元（2019）年度 教養講座アンケート集計

尾道市立大学 教養講座（第2回）	
日 時	令和元（2019）年10月9日（水）18：30～20：00
会 場	しまなみ交流館 大会議室

演 題	元号でGO！—日本中世ウラ話—
講 師	藤川 功和（尾道市立大学日本文学科教授）
講座の概要	本年5月に、三十年続いた平成から令和へと改元され、日本は新たな時代を歩み始めました。そこで、新元号を祝し？て、主に鎌倉時代の諸資料から、改元や元号に纏わるエピソードをゆる～く辿ってみたいと思います。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	26名
アンケート回答者（回収率）	19名（73%）

講座について					
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	無回答
9	4	0	0	0	6

☆ご意見・ご感想（抜粋）

- ・キャッチーですごかったです。ほんとうに！（20代女性）
- ・また講義を聴きたい！（30代女性）

令和元（2019）年度 教養講座アンケート集計

尾道市立大学 教養講座（第3回）	
日 時	令和元（2019）年10月16日（水）18：30～20：00
会 場	しまなみ交流館 大会議室

演 題	人工知能を覗いてみよう
講 師	木村 文則（尾道市立大学経済情報学科准教授）
講座の概要	人工知能が人間を超える？仕事を奪う？人工知能のことをちょっと知るだけで、これらの疑問が解消します。人工知能のしくみ、特徴について覗いてみましょう。また、自動車の自動運転など、社会への影響も見てみましょう。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	16名
アンケート回答者（回収率）	11名（69%）

講座について					
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	無回答
7	3	0	0	0	1

☆ご意見・ご感想（抜粋）

- ・シンギュラリティが個人的には気になりました。（20代女性）

令和元（2019）年度 教養講座アンケート集計

尾道市立大学 教養講座（スペシャル DAY 第1部）	
日 時	令和元（2019）年10月26日（土）13：00～14：30
会 場	尾道商業会議所記念館 2F 議場

演 題	どうなるの？今の税金戦争の行方は
講 師	前田 謙二（尾道市立大学経済情報学科教授）
講座の概要	最近の経済における IT 化やグローバル化に対して、現行の国際課税ルールではうまく対応出来ず、新たな税金戦争が生じています。その戦争の現状と対処方法とはどのようなものなのか、を一緒に考えましょう。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	35名
アンケート回答者（回収率）	28名（80%）

講座について					
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	無回答
18	7	1	0	0	2

☆ご意見・ご感想（抜粋）

- ・税（事業税）に対する知識がなかったのですが、国の予算ともかかわることから、今後も、見守っていきたいものです。（70代男性）
- ・軽快なトークで、わかりやすい言葉、身近な表現を使ってくれるのでとても聞きやすかった。（30代女性）

令和元（2019）年度 教養講座アンケート集計

尾道市立大学 教養講座（スペシャル DAY 第2部）	
日 時	令和元（2019）年10月26日（土）14：45～16：15
会 場	尾道商業会議所記念館 2F 議場

演 題	尾道町の古文書を読む—江戸時代の暮らしを感じる—
講 師	森本 幾子（尾道市立大学経済情報学科准教授）
講座の概要	本講座では、尾道町に生きた人々の生活や、他の地域との交流の様子を綴った古文書を読むことによって、江戸時代の尾道をイメージしていただきます。初心者の方にも読めるように、解説のポイントについても解説します。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	41名
アンケート回答者（回収率）	34名（83%）

講座について					
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	無回答
16	4	0	0	0	14

☆ご意見・ご感想（抜粋）

- ・平民が町奉行の役人という上の立場の人に怒った手紙を送れることができたという事実が面白いなと思いました。（20代女性）
- ・久しぶりの講義楽しみにしておりました。又、よろしくお願ひします。（60代女性）
- ・古文書シリーズがあるといいです（60代男性）

尾道市立大学 地域総合センター主催
秋のオムニバス公開講座

入場無料

教養講座

2019 **予約不要**

第1回 **10/2(水)**

「はじめて出会う『国画会』
—始まりから現在—」

□橋野仁史 講師

第2回 **10/9(水)**

「元号でGO!—日本中世ウラ話—」

□藤川功和 教授

第3回 **10/16(水)**

「人工知能を覗いてみよう」

□木村文則 准教授

<時間> 18:30-20:00(18:00開場)

<会場> しまなみ交流館2F大会議室

1回のみ
参加でも
OK!

スペシャルDAY **要予約**

10/26(土)

第1部 「どうなるの?今の税金戦争の行方は」

□前田謙二 教授

第2部 「尾道町の古文書を読む

—江戸時代の暮らしを感じる—」

□森本幾子 准教授

<時間> 13:00-16:15(12:30開場)

<会場> 尾道商業会議所記念館2F議場

[ご予約・お問い合わせ]
尾道市立大学地域総合センター

TEL:0848-22-8312(内線260)
<月-金(祝除く)10:00-17:00>
mail:csc@onomichi-u.ac.jp

尾道市立大学 地域総合センター主催
秋のオムニバス公開講座

教養講座

入場無料

尾道市立大学では、地域に開かれた大学をめざし、教育研究活動の一端を地域に還元することを目的として、下記のとおり「教養講座」を開講いたします。毎回担当講師が変わるオムニバス形式の講座となっております。1回のみ参加や、興味のある回のみ参加も大歓迎です。ぜひお越しくださいませ。

教養講座 しまなみ交流館2F大会議室 18:30-20:00(18:00開場)

予約不要

<p>第1回 10/2 WED</p> <p>はじめて出会う「国画会」 —始まりから現在—</p> <p>美術学科講師 橋野仁史</p> <p>日本では美術団体というのが 300 も 400 もあり、毎年多くの美術団体の展覧会が開催されています。その中の一つに、今年で 93 年目を迎える歴史のある美術団体「国画会」があります。今回は、私が所属している美術団体「国画会」の歴史や活動内容について紹介します。</p>	<p>第2回 10/9 WED</p> <p>元号でGO！ —日本中世ウラ話—</p> <p>日本文学教授 藤川功和</p> <p>本年五月に、三十年続いた平成から令和へと改元され、日本は新たな時代を歩み始めました。そこで、新元号を祝して、主に鎌倉時代の諸資料から、改元や元号に纏わるエピソードをゆる〜く辿ってみたいと思います。</p>	<p>第3回 10/16 WED</p> <p>人工知能を覗いてみよう</p> <p>経済情報学科准教授 木村文則</p> <p>人工知能が人間を超える？仕事を奪う？人工知能のことをちょっと知るだけで、これらの疑問が解消します。人工知能のしくみ、特徴について覗いてみましょう。また、自動車の自動運転など、社会への影響も見てみましょう。</p>
---	--	---

スペシャルDAY 尾道商業会議所記念館2F議場 13:00-16:15(12:30開場)

要予約

10/26
SAT

<p>これまでのアンケート集計で希望の多かった「法學」について、今回は国際的な税金の立場から分かりやすくお話しします。</p> <p>第1部 どうなるの？ 今の税金戦争の行方は</p> <p>経済情報学科教授 前田謙二</p> <p>最近の経済におけるIT化やグローバル化に対して、現行の国際課税ルールではうまく対応出来ず、新たな税金戦争が生じています。その戦争の現状と対処方法とはどのようなものなのか、をご一緒に考えましょう。</p>	<p>もう少し初心者対象の古文書を読みたいという方のご希望にお応えして、分かりやすく解説方法をお伝えします。</p> <p>第2部 尾道町の古文書を読む —江戸時代の暮らしを感じる—</p> <p>経済情報学科准教授 森本幾子</p> <p>本講座では、尾道町に生きた人々の生活や、他の地域との交流の様子を綴った古文書を読むことによって、江戸時代の尾道をイメージしていただけます。初心者の方にも読めるように、解説のポイントについても解説します。</p>
--	--

参加者のお名前、お電話番号を、尾道市立大学地域総合センターまで、お電話かメールにてご連絡ください。お申込みは先着順にて、定員になり次第締め切りとさせていただきます。

・入場無料・定員 40 名

尾道市立大学地域総合センター
TEL:0848-22-8312 (内線 260) 月～金 (祝除く) 10:00-17:00
繋がらない場合は 0848-22-8311 (代) まで
mail:csc@onomichi-u.ac.jp

ご予約方法



【しまなみ交流館】(広島県尾道市東御所町10-1)
電車▷JR山陽本線「尾道駅」から徒歩1分
※しまなみ交流館駐車場なし
(最寄有料駐車場…ベルポール駐車場 24時間 / 最初の1時間 210円、以降30分100円)
【尾道商業会議所記念館】(広島県尾道市土堂一丁目8番8号)
電車▷JR山陽本線「尾道駅」から東に徒歩5分
(商店街の中にあります。)
※尾道商業会議所記念館駐車場なし
(最寄り有料駐車場…桂馬パーキング 24時間 / 20分100円)

令和元（2019）年度 尾道学入門公開授業カリキュラム

尾道市立大学では、地域に開かれた大学づくりの一環として、教養教育科目の講義「尾道学入門」を公開いたします。

回	日 時	演 題	講 師
第1回	5月16日（木） 9：00～10：30	小林和作先生の思い出	洋画家 村上 選
第2回	5月30日（木） 9：00～10：30	私の書いた尾道	小説家 森岡 久元
第3回	6月6日（木） 9：00～10：30	志賀直哉の尾道時代 —「城の崎にて」をめぐって—	尾道市立大学名誉教授 寺杣 雅人
第4回	7月4日（木） 9：00～10：30	尾道空き家再生プロジェクト	NPO 法人尾道空き家再生 プロジェクト代表理事 豊田 雅子
第5回	8月1日（木） 9：00～10：30	地域学の発掘 —「尾道学」構築と実践のあらまし—	尾道市史編さん委員会事務局 ・尾道新聞社嘱託 林 良司

尾道市立大学 尾道学入門公開授業（第1回）	
概 要	尾道市立大学では、地域に開かれた大学づくりの一環として、教養教育科目の講義「尾道学入門」を公開いたします。
日 時	令和元（2019）年5月16日（木）9：00～10：30
会 場	尾道市立大学 E棟4階 401講義室

演 題	小林和作先生の思い出
講 師	村上 選（洋画家）

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	27名
アンケート回答者（回収率）	22名（81%）

講座について					
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	無回答
10	7	1	0	0	4

☆ご意見・ご感想（抜粋）

- ・選先生自身のお話しも聞いて良かったです。小林和作先生の本も更に読みたくなりました。「花を見るかな」は読ませていただきました。（30代女性）
- ・来年もぜひ公開講座をしていただきたいと思います。（70代女性）

令和元（2019）年度 尾道学入門公開授業アンケート集計

尾道市立大学 尾道学入門公開授業（第2回）	
日 時	令和元（2019）年5月30日（木）9：00～10：30
会 場	尾道市立大学 E棟4階 401講義室

演 題	私の書いた尾道
講 師	森岡 久元（小説家）

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	17名
アンケート回答者（回収率）	15名（88%）

講座について					
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	無回答
6	5	2	0	0	2

☆ご意見・ご感想（抜粋）

- ・帰宅前に、海山荘のあった場所、パーキング、やまねこカフェに寄ろうと思います。福山市在住なので浜吉も見たいと思います。（50代女性）
- ・伊藤博文が尾道に来て泊まった話大変興味深く聞きました。路地から本通りを見る視点で次回も面白い話期待しています。（70代男性）

令和元（2019）年度 尾道学入門公開授業アンケート集計

尾道市立大学 尾道学入門公開授業（第3回）	
日 時	令和元（2019）年6月6日（木）9：00～10：30
会 場	尾道市立大学 E棟4階 401講義室

演 題	志賀直哉の尾道時代―「城の崎にて」をめぐって―
講 師	寺 杣 雅人（尾道市立大学名誉教授）

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	12名
アンケート回答者（回収率）	10名（83%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
8	2	0	0	0

☆ご意見・ご感想（抜粋）

- ・一般も加えての講座を開いて頂き有難うございました。（80代～女性）
- ・引き続き魅力的な内容を期待します。（50代女性）

令和元（2019）年度 尾道学入門公開授業アンケート集計

尾道市立大学 尾道学入門公開授業（第4回）	
日 時	令和元（2019）年7月4日（木）9：00～10：30
会 場	尾道市立大学 E棟4階 401 講義室

演 題	尾道空き家再生プロジェクト
講 師	豊田 雅子（NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト代表理事）

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	20名
アンケート回答者（回収率）	12名（60%）

講座について					
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	無回答
6	3	0	0	0	3

☆ご意見・ご感想（抜粋）

- ・シチリア（イタリア）が参考になるのでは（40代男性）
- ・来年度も楽しみにしていますので、またぜひお願いします。（50代女性）

令和元（2019）年度 尾道学入門公開授業アンケート集計

尾道市立大学 尾道学入門公開授業（第5回）	
日 時	令和元（2019）年8月1日（木）9：00～10：30
会 場	尾道市立大学 E棟4階 401講義室
演 題	地域学の発掘 ―「尾道学」構築と実践のあらまし―
講 師	林 良司（尾道市史編さん委員会事務局・尾道新聞社嘱託）

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	12名
アンケート回答者（回収率）	10名（83%）

講座について					
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	無回答
4	4	0	1	0	1

☆ご意見・ご感想（抜粋）

- ・地域学全般について広く学習できた。（70代女性）
- ・尾道や御調の歴史を学ぶことが出来て、とても良かった。林先生の話し方がとても聞きやすかった。（40代女性）
- ・尾道学のなりたちから現在の活動まで、わかりやすい事例と共に学ばせていただきました。掘り下げれば1つ1つがまだまだ興味深い学問や話題になりそうです。（60代女性）
- ・知らなかった尾道の歴史、生活を聞かせていただき、ありがとうございました。（60代男性）



尾道市立大学
Onomichi City University

公開授業

尾道学入門



入場無料

5月16日(木)
評論家
村上 選
「小林和作先生の思い出」

5月30日(木)
小説家
森岡 久元
「私の書いた尾道」

6月6日(木)
尾道市立大学名誉教授
寺杣 雅人
「志賀直哉の尾道時代
-「城の端にて」をめぐって-」

7月4日(木)
NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト
代表理事
豊田 雅子
「尾道空き家再生プロジェクト」

8月1日(木)
尾道市史編さん委員会事務局
/ 尾道新聞社嘱託
林 良司
「地域学の発掘-「尾道学」
構築と実践のあらし-」

地域に開かれた大学づくりの一環として教養教育科目の講義「尾道学入門」を一般公開いたします。

場所：尾道市立大学 E 棟 4F 401 講義室
時間：9：00～10：30（8：40 開場）

駐車場はございません。公共交通機関でお越しください。
※予約不要です。お気軽にご参加ください。

お問い合わせ：TEL > 0848-22-8311（代）尾道市立大学地域総合センター

令和元（2019）年度 コンピュータ公開講座アンケート集計

尾道市立大学 コンピュータ公開講座（令和元年度 第1回）	
日 時	令和2（2020）年2月8日（土）13：00～15：00
会 場	尾道市立大学 C棟2階C3教室

演 題	鳥はなぜ群れながら飛ぶのか マルチエージェントシステムによるシミュレーション
講 師	川勝 英史（尾道市立大学経済情報学科教授）
対 象	一般・学生・教職員（ある程度パソコンを操作できる方） ※中学生、高校生の参加大歓迎です。
受講料	無料
講座の概要	近年、マルチエージェントシミュレーションをきっかけとして、「鳥の特殊な能力」を仮定しなくても、「鳥が群れながら飛ぶ」という現象を説明できるようになりました。前半では、シミュレーションにより、鳥の群れが形成される様子を観察します。後半では、簡単なマルチエージェントシミュレーションモデルの構築を体験します。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	4名
アンケート回答者（回収率）	4名（100%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
0	4	0	0	0

☆ご意見・ご感想（抜粋）

- ・敵のザコキャラの動きに使いそうです。魚とか羊とか…。（40代男性）
- ・体験型セミナーを続けていただけると嬉しいです（60代男性）
- ・大変面白く興味を持ちました。すぐに仕事に使えるか分かりませんが、良い刺激になりました。（60代男性）

鳥はなぜ群れながら飛ぶのか

マルチエージェントシステムによるシミュレーション

2/8(土) 13:00 - 15:00 (受付 12:30)

場所：尾道市立大学 C棟 2階 C3教室

講師：川勝 英史 (尾道市立大学 経済情報学部 教授)

【内容】

近年、マルチエージェントシミュレーションをきっかけとして、「鳥の特殊な能力」を仮定しなくても、「鳥が群れながら飛ぶ」という現象を説明できるようになりました。前半では、シミュレーションにより、鳥の群れが形成される様子を観察します。後半では、簡単なマルチエージェントシミュレーションモデルの構築を体験します。

【対象】

一般・学生・教職員 (ある程度パソコン操作のできる方)

※中学生、高校生の参加大歓迎です！

受講料無料

【定員】 要予約

20名 (応募者多数の場合は抽選)

【申込方法】

メール

※携帯電話からの申し込みはご遠慮ください。

次の事項を記入して、k-kouza@onomichi-u.ac.jp宛に送信してください。

◆ (件名) コンピュータ公開講座受講希望

◆ (本文)

希望講座の講座名、住所、氏名、年齢、電話番号、パソコン歴

【申込期限】

2/2 (日)

◆お申込み後、受付完了メールをお送りします。

※2月3日(月)までに返信が届かない場合は、必ずお電話にてご連絡ください。

※迷惑メール設定等により、正しくメールが届かない場合があります。

◆作成したデータを持ち帰りたい方は、USBメモリをご用意ください。

◆受付完了後、講座の案内をメールにてお届けします。

※2月6日(木)まで届かない場合は、必ずお電話にてご連絡ください。

◆自家用車での来学は可能です。大学駐車場(裏門前)をご利用ください。

お問い合わせ：〒722-8506 尾道市久山田町1600番地2 尾道市立大学 情報処理研究センター(0848-22-8311)

令和元（2019）年度 情報科学研究会アンケート集計

尾道市立大学 第31回情報科学研究会（令和元年度）	
日時	令和元（2019）年11月11日（月）14：50～16：20
会場	尾道市立大学 C棟3階C4教室

演題	プログラミング学習支援研究の最新動向と展望
講師	松本 慎平（広島工業大学情報学部准教授）
対象	一般・学生・教職員
モデレータ	有吉 勇介（尾道市立大学経済情報学部教授）
受講料	無料
講座の概要	昨今、プログラミング教育が話題に上ることが増えてきましたが、プログラミング学習者を効果的に支援するためには、プログラミングに要求される多様な学習要素を細分化し、要素ごとの評価を踏まえたうえで学習者に適応した教材を用意する必要があります。このような背景を踏まえ、講演者の研究グループでは、これまで、読むこと、考えること、操作することを中心としたプログラミング学習支援システム開発してきました。それに加えて、初学者向け開発環境の構築、プログラミング読解中の視線の動きから学習者の思考過程を推定することを試みたデータ分析、プログラミング教育に関するデータ収集とそれに基づいた基礎分析なども推進してきました。本講演では、これまでの取り組みの概要と得られた成果を紹介し、今後の展望についてもふれる予定です。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	34名
アンケート回答者（回収率）	28名（82%）

講座について					
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	無回答
9	12	3	1	0	3

☆ご意見・ご感想（抜粋）

- ・プログラミング教育というものが支援の方法を段階的に分けることで、それぞれの必要な能力を抽出して把握できるのだと感じました。今までの教育では、数学の文章題が論理性の発達に関わっていたと思うが、これ以上に順序を組み立てる論理性だけにフォーカスすることができる教育方法にプログラミング教育になっていくと感じました。（20代男性）
- ・学習支援に関するさまざまなキーワード、考え方を知れたのでよかった。（30代男性）
- ・自分の実力以上の内容が多かった。また話を聞く機会が1,2年後にあるとうれしい。（10代男性）
- ・プログラミングの学び方は他の教科とは異なるので、学び方がわからず苦手になってしまう人が多いことがわかった。そういった人達にはコンピューテーショナルシンキングが足りていないのだと思うので、それを補うことができる仕組みをプログラミングを教える人が全面的に押し出して欲しいなと思いました。（10代男性）
- ・プログラミング教育の研究で色んな人がプログラミングが苦手な人に注目して考えられていて、私自身も苦手な方なので、自分自身の学習方法も考えながらプログラミング学習を頑張っていこうと思いました。（10代女性）

第 31 回

尾道市立大学情報科学研究会



プログラミング学習支援 研究の最新動向と展望

2019年11月11日(月)

14:50~16:20

会場：尾道市立大学 C 棟 3階 C4 教室

プログラミング教育について解説する講演会です。
学生、教職員、教育に興味のある方、どなたでも大歓迎！
入場無料、予約不要。ぜひお越しくださいませ！

入場無料
予約不要

講師

松本 慎平 氏 (広島工業大学情報学部准教授)

2007年大阪大学大学院博士後期課程修了。大分工業高等専門学校講師などを経て、2010年広島工業大学情報学部助教、2013年より同大学准教授となり現在に至る。
2015年より尾道市立大学経済情報学部非常勤講師。教育工学、社会システム工学の研究に従事。博士（情報科学）。



プログラミングが小学校から順次必修化されるため、最近、プログラミング教育が話題になることが増えてきました。そこで本講演ではプログラミング学習支援システムの開発や初学者向け開発環境の構築などの最新の取り組みの概要と得られた成果を紹介し、今後の展望についてもふれる予定です。

<モデレータ>
有吉 勇介 (尾道市立大学経済情報学部教授)

主催：尾道市立大学情報科学研究会 協力：尾道市立大学地域総合センター
問合せ先：尾道市立大学情報処理研究センター TEL：0848-22-8311
E-mail：ict-rc@onomichi-u.ac.jp URL：https://www.onomichi-u.ac.jp

令和元（2019）年度 情報科学研究会アンケート集計

尾道市立大学 第32回情報科学研究会（令和元年度）	
日 時	令和元（2019）年12月5日（木）13：10～14：40
会 場	尾道市立大学 E棟4階401講義室

演 題	教育におけるICT活用と著作権
講 師	隅谷 孝洋先生（広島大学情報メディア教育研究センター准教授）
対 象	一般・学生・教職員
モデレータ	有吉 勇介（尾道市立大学経済情報学部教授）
受講料	無料
講座の概要	PC必携やLMS(Learning Management System)活用など大学等での教育におけるICT活用について、広島大学の事例を中心に現在の状況を説明します。また、2018年に教育におけるICT活用を推進するための著作権法改正が行われましたが、どのような問題を改善するためにどのような改正が行われたかについて解説します。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	36名
アンケート回答者（回収率）	28名（78%）

講座について					
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	無回答
9	12	0	1	0	6

☆ご意見・ご感想（抜粋）

- ・大学での授業のありかたについて考えさせられました。（20代男性）
- ・教育における著作物について知ることが出来、どこまでが利用可能なのかについて知ることが出来た。（20代男性）
- ・情報ツールを使って、すごく進んだ授業を行っている学校もすでにあるんですね。（20代女性）
- ・他大学や一般的にBYODが進んでいると広く知ってもらえる機会だったと思いました。1年生に受けて欲しい、おすすめしたいご講義でした。PC設定会の資料の意味やバックグラウンドを理解しながら行っている学生は何人いるだろうかと思います。PCの基礎知識をスマホで視ながら出来たら。（20代女性）
- ・聞いてみると意外とわかっていなかったり、知らない情報があったり、思っていたことと違った等の変化を感じる機会になりました。（20代女性）
- ・PCを用いた授業に対する意見には共感した。ICT機器の取り扱い方の意識のずれ違いが起きていると思うので、ある程度のコンセンサスを持つべきだと思った。（10代男性）

第32回

尾道市立大学情報科学研究会



教育における ICT 活用と著作権

2019年12月5日(木)
13:10~14:40

会場：尾道市立大学 E 棟 4 階 401 講義室

教育における ICT (Information and Communication Technology=情報通信技術)活用について解説する講演会です。
学生、教職員、教育に興味のある方、どなたでも大歓迎！
入場無料、予約不要。ぜひお越しくださいませ！

入場無料
予約不要

講師

隅谷 孝洋 氏 (広島大学情報メディア教育研究センター准教授)

1989年 同大 大学院工学研究科博士課程前期修了・総合科学部教務員～助手～講師
2001年 同大 情報メディア教育研究センター 助教授(准教授)
現在は、広島大学 情報科学部 / 教育学研究科 / 総合科学研究科 にて授業担当
広島大学 情報メディア教育研究センターで、学習支援システム運用、eラーニング支援などの業務担当
AXIES(大学ICT推進協議会)学術・教育コンテンツ共有流通部会 著作権タスクフォースにて教育著作権に関わる活動に従事



PC 必携や LMS(Learning Management System) 活用など大学等での教育における ICT 活用について、広島大学の事例を中心に現在の状況を説明します。
また、2018年に教育における ICT 活用を推進するための著作権法改正が行われましたが、どのような問題を改善するために、どのような改正が行われたかについて解説します。

<モデレータ>

有吉 勇介 (尾道市立大学経済情報学部教授)

主催：尾道市立大学情報科学研究会 協力：尾道市立大学地域総合センター

問合せ先：尾道市立大学情報処理研究センター

TEL：0848-22-8311

E-mail：ict-rc@onomichi-u.ac.jp

URL：https://www.onomichi-u.ac.jp

令和元年度 尾道文学談話会 テーマ一覧

尾道文学談話会は、日本文学科を中心とした本学の教員が、文学や言葉にかかわる様々な話題を提供し、市民の皆様と語り合う談話形式の公開講座です。

【日時】 毎月第1月曜日（変更の場合あり）

【場所】 尾道市立大学サテライトスタジオ

令和元（2019）年度

回	開催日	談話テーマ	講師
第1回	令和元年4月1日	『雨月物語』を読む（5）－「浅茅が宿」－	藤沢 毅
第2回	令和元年5月6日	白石一郎『海狼伝』論 一本文異同をめぐる一	原 卓史
第3回	令和元年6月3日	15世紀イギリスの手紙文を読む際の諸問題について	平山 直樹
第4回	令和元年7月1日	ミステリーの魅力とは or 怪談の魅力とは	光原 百合
第5回	令和元年8月5日	絵を語る作家たち 一近代日本における絵画と文学のあいだ一	藤本 真理子 西嶋 亜美
第6回	令和元年9月2日	時代小説を経済の目で読む 一もっと楽しむためのもう一つのまなざし一	勝矢 倫生
第7回	令和元年10月7日	不思議？な肖像画 ～伝土佐光信筆「伝足利義政像」をめぐる～	市川 彰
第8回	令和元年11月4日	ジャーナリストとしてのスウィフト：『ガリヴァー旅行記』誕生秘話	林 直樹
第9回	令和元年12月9日	橋本竹下の漢詩について	鷹橋 明久
第10回	令和2年1月6日	志賀直哉「城の崎にて」を読む一尾道からのアプローチ一	寺柚 雅人
第11回	令和2年2月3日	森敦の『マンダラ紀行』を読む	刈山 和俊 柴 市郎
第12回	令和2年3月2日	昔話「犬の足」の伝承世界	藤井 佐美

日本文学を中心とした本学の教員が、文学や芸術に関わる様々な話題を提供し、市民の皆様と語り合う「談話形式の公開講座『2019年度尾道文学談話会』を以下の日程およびテーマで開催します。ぜひお気軽にご参加ください。

おのちの文壇

尾道文学談話会

だんわんわかい

毎月第1月曜日 (12月は第2月曜)
18:30~20:00 予約不要・参加無料
尾道市立大学 SATELLITE STUDIO
尾道市立大学 サテライトスタジオ
広島県尾道市土堂1丁目8-5尾道駅より東に徒歩5分

9/2 時代小説を経済の目で読む
——もっと楽しむためのもう一つのまなこ——
尾道市立大学名誉教授 勝矢倫生

8/5 絵を語る作家たち
——近代日本における絵画と文学のあいだ——
日本文学科准教授 藤本真理子
美術学科准教授 西嶋亜美

7/1 ミステリーの魅力とは or 怪談の魅力とは
日本文学科教授 光原百合

6/3 15世紀イギリスの手紙文を読む際の諸問題について
日本文学科准教授 平山直樹

5/6 白石一郎「海狼伝」論——本文真実をめぐる——
日本文学科准教授 原卓史

4/1 「雨月物語」を読む(5)——「透子」篇——
日本文学科教授 藤沢 毅

10/7 不思議な肖像画
——佐土旺光信筆「伝足利義政像」をめぐる——
美術学科准教授 市川 彰

11/4 ジャーナリストとしてのスウィフト
「ガリヴァー」旅行記——誕生短話——
経済情報学系准教授 林 直樹

12/9 橋本竹下の漢詩について
日本文学科准教授 鷹橋明久

1/6 志賀直哉「城の崎にて」を読む
——尾道からのアプローチ——
尾道市立大学名誉教授 寺柚雅人

2/3 森敦の「マンガラ紀行」を読む
尾道市立大学名誉教授 刈山和俊

3/2 昔話「犬の足」の伝承世界
日本文学科教授 藤井 佐美

観会により日程が変更になる場合は、尾道市立大学サイトにてお知らせいたします。
(当日の急な変更などについては会場掲示によるお知らせとなる場合があります。何卒ご了承ください。)

お問い合わせ：尾道市立大学地域総合センター TEL.0848-22-8311 (1F)

尾道市立大学教員 FM おのみち出演 トークテーマ一覧

FM おのみちの番組『You Gotta Radio』内にて、尾道市立大学教員が研究内容の紹介や大学主催共催の講座・イベント・展示の告知を行うコーナーで行われたトークテーマです。

【日時】 毎月第1水曜日 18時16分頃から

【放送局】 FM おのみち（周波数79.4）

年度	開催年月	出演者	学科	トークテーマ
令和2	令和2年4月	藤沢 毅	日本文学科	尾道市立大学、新年度を迎えて この状況の下で
	令和2年5月	ご出演無し		
	令和2年6月	川勝 英史	経済情報学科	イギリス研究留学一家族4人の生活奮闘記一
	令和2年7月	平山 直樹	日本文学科	英国での研究と暮らし
	令和2年8月	林 宏	美術学科	自身の作家活動として、漆の器を中心とした「漆の話」と「学生に伝えたいこと」
	令和2年9月	溝淵 裕	経済情報学科	ハラスメント相談について
	令和2年10月	堀江 進也	経済情報学科	コロナ禍のまっただ中の若者に望むこと
	令和2年11月	吉田 政之	経済情報学科	測定されるということ
	令和2年12月	藤川 功和	日本文学科	第12回 おのみち文学三昧について
	令和3年1月	中村 譲	美術学科	「美術学科の実習授業の現在」～コロナ禍の対面授業について～
	令和3年2月	稲川 豊	美術学科	表現と多様な対話の形
令和3年3月	藤井 佐美	日本文学科	オンライン授業と尾道民話	
令和元	平成31年4月	藤井 佐美	日本文学科	2019年度、尾道文学談話会のお知らせ
	令和元年5月	ご出演無し		
	令和元年6月	原 卓史	日本文学科	白石一郎『海狼伝』について
	令和元年7月	鈴木 恵麻	美術学科	自己紹介と尾道市立大学日本画について
	令和元年8月	林 直樹	経済情報学科	啓蒙とはなにか：社会思想史の観点から
	令和元年9月	南郷 毅	経済情報学科	いろんな学校
	令和元年10月	稲田 全示	美術学科	退任展の作品について
	令和元年11月	矢野 哲也	美術学科	花壇から見える日本とフランスの色彩感覚の違い
	令和元年12月	小畑 拓也	日本文学科	第11回 おのみち文学三昧について
	令和2年1月	ご出演無し		
令和2年2月	王 佳子	経済情報学科	株主の議決権行使のための環境整備に関する近時の動向	
令和2年3月	井本 伸	経済情報学科	サバティカル制度を利用した海外研修について	
平成30	平成30年4月	津村 怜花	経済情報学科	福沢諭吉と簿記のすゝめ
	平成30年5月	森本 幾子	経済情報学科	江戸時代の女性像
	平成30年6月	川口 俊宏	経済情報学科	8月4日（土）に尾道駅前宇宙・天文の講演会を開催します
	平成30年7月	伊藤 麻子	美術学科	自己紹介と、第16回尾道地域課題+地域活性化企画について
	平成30年8月	藤沢 毅	日本文学科	高校生に利用してほしい尾道市立大学

年度	開催年月	出演者	学科	トークテーマ	
平成 30	平成 30 年 9 月	橋野 仁史	美術学科	自己紹介と塩川高敏展について	
	平成 30 年 10 月	本田 治	経済情報学科	暗号とコンピュータ	
	平成 30 年 11 月	前田 謙二	経済情報学科	税金って何？	
	平成 30 年 12 月	小畑 拓也	日本文学科	第 10 回 おのみち文学三昧について	
	平成 31 年 1 月	ご出演無し			
	平成 31 年 2 月	世永 逸彦	美術学科	卒業	
	平成 31 年 3 月	藤井 佐美	日本文学科	昔話「猫とかぼちゃ」の伝承世界	
平成 29	平成 29 年 4 月	藤井 佐美	日本文学科	尾道文学談話会について	
	平成 29 年 5 月	小野 環	美術学科	大学院美術研究科進級展について	
	平成 29 年 6 月	黒田 教裕	美術学科	デザインコース：第 15 回尾道地域課題＋地域活性化企画について	
	平成 29 年 7 月	金田 陸幸	経済情報学科	尾道市の人口減少問題	
	平成 29 年 8 月	佐野 夏樹	経済情報学科	データ解析コンペについて	
	平成 29 年 9 月	高間 沙織	経済情報学科	尾道医師会方式のケアカンファレンスの機能	
	平成 29 年 10 月	野崎 眞澄	美術学科	第 14 回 尾道灯りまつりについて	
	平成 29 年 11 月	信木 伸一	日本文学科	心に残る国語教材	
	平成 29 年 12 月	小畑 拓也	日本文学科	第 9 回 おのみち文学三昧について	
	平成 30 年 1 月	ご出演無し			
	平成 30 年 2 月	岡本 隼輔	経済情報学科	毒性化学物質排出の経済的・技術的な変化要因を分析するための新手法について	
	平成 30 年 3 月	後藤 祐一	経済情報学科	NPO, 政府, 企業による協働	
	平成 28	平成 28 年 4 月	松野 友芳	経済情報学科	契約について—悪徳商法被害に遭わないために
		平成 28 年 5 月	邵 忠	経済情報学科	尾道市立大学の国際交流の取り組み
平成 28 年 6 月		荒井 貴史	経済情報学科	「尾道のまちの変化と可能性、私の視点から～20年前から現在まで、そして未来～」	
平成 28 年 7 月		岸本 理恵	日本文学科	平安朝の七夕の和歌	
平成 28 年 8 月		野崎 眞澄	美術学科	デザインコース：第 14 回尾道地域課題＋地域活性化企画について	
平成 28 年 9 月		藤井 佐美	日本文学科	浦島伝説の魅力 — 尾道編 —	
平成 28 年 10 月		小川 長	経済情報学科	小川研究室主催・街中ゼミ第 8 弾『尾道定住化計画』について	
平成 28 年 11 月		西村 剛	経済情報学科	宝塚歌劇団を創った企業家 — 小林一三について —	
平成 28 年 12 月		藤川 功和	日本文学科	第 8 回 おのみち文学三昧について	
平成 29 年 1 月		ご出演無し			
平成 29 年 2 月		中村 譲	美術学科	美術学科卒業制作・大学院美術研究科修了制作展について	
平成 29 年 3 月		西嶋 亜美	美術学科	尾道市立大学美術館での催し物について	
平成 27		平成 27 年 4 月	稲田 全示	美術学科	尾道の神話
		平成 27 年 5 月	世永 逸彦	美術学科	編集デザイン(エディトリアルデザイン)について

年度	開催年月	出演者	学科	トークテーマ
平成 27	平成 27 年 6 月	藤川 功和	日本文学科	ナニコレ 百人一首 — 7 月の尾道文学談話会の紹介をかねて—
	平成 27 年 7 月	藤原 靖也	経済情報学科	大学生にふれて感じる事 (最近の大学生にふれて見えてきた 2 つの傾向)
	平成 27 年 8 月	木村 文則	経済情報学科	理系 (情報学) と文系 (人文学) の融合
	平成 27 年 9 月	岡本 隼輔	経済情報学科	目先の結果に囚われないことの重要性
	平成 27 年 10 月	小野 環	美術学科	AIR Onomichi 2015 について
	平成 27 年 11 月	原 卓史	日本文学科	和田竜『村上海賊の娘』の魅力
	平成 27 年 12 月	藤川 功和	日本文学科	第 7 回 おのみち文学三昧について
	平成 28 年 1 月	森本 幾子	経済情報学科	尾道のお正月
	平成 28 年 2 月	大西 秀典	経済情報学科	年金と税金
	平成 28 年 3 月	菅 準一	経済情報学科	尾道市立大学における私の健康法
平成 26	平成 26 年 4 月	西嶋 亜美	美術学科	西洋美術と旅
	平成 26 年 5 月	安達 功	経済情報学科	ワインの選び方
	平成 26 年 6 月	溝淵 裕	経済情報学科	街道を歩く
	平成 26 年 7 月	有吉 勇介	経済情報学科	論文のチェック (査読) について
	平成 26 年 8 月	世永 逸彦	美術学科	グラフィックデザインについて
	平成 26 年 9 月	藤本 真理子	日本文学科	方言などからイメージされる役割語の世界
	平成 26 年 10 月	森本 幾子	経済情報学科	出雲屋敷の献立
	平成 26 年 11 月	神崎 稔章	経済情報学科	地域経済—北海道を例に—
	平成 26 年 12 月	藤川 功和	日本文学科	文学三昧について
	平成 27 年 1 月	藤岩 秀樹	経済情報学科	冬のヒートショックにご用心
	平成 27 年 2 月	寺柚 雅人	日本文学科	志賀直哉が表現した千光寺の鐘の音
	平成 27 年 3 月	藤井 佐美	日本文学科	道成寺縁起絵巻の研究 (学生と出演)
	平成 25	平成 25 年 4 月	吉原 慎介	美術学科
平成 25 年 5 月		小野 環	美術学科	AIR Onomichi 2013 について
平成 25 年 6 月		藤川 功和	日本文学科	中世文藝研究会の活動について
平成 25 年 7 月		高山 毅	経済情報学科	気がきく IT をめざして
平成 25 年 8 月		井本 伸	経済情報学科	経済全体で考えるとはどういうことか
平成 25 年 9 月		林 直樹	経済情報学科	ロビンソンクルーソーを再読する
平成 25 年 10 月		桜田 知文	美術学科	鑄造作品の制作について
平成 25 年 11 月		寺柚 雅人	日本文学科	林芙美子未公開書簡 1 通について
平成 25 年 12 月		藤川 功和	日本文学科	文学三昧について
平成 26 年 1 月		足立 英之	経済情報学科	尾道市立大学の法人化について
平成 26 年 2 月		小谷 範人	経済情報学科	尾大での思い出
平成 26 年 3 月		本田 治	経済情報学科	コンピュータの仕組みを簡単に

受託研究等一覧表

尾道市立大学で行われた産学連携・産官学連携の受託研究等一覧です。

年度	研究題目	対応者		相手先
		教職員	学生	
令和2	AI画像認識技術により水産塩干物製造における異物を特定するソフトウェアを制作する	木村 文則 本田 治	経済情報学科 2名	(株)カタオカ
	福山SA(上り)バラ園にある工作物を活用したモニュメントのデザイン	小野 環	美術学科 3名	西日本高速道路(株)中国支社 福山高速道路事務所
	「尾道グルメマップ」表紙デザイン作成	野崎 眞澄	美術学科 1名	グルメ・海の印象派—おのみち—実行委員会
	おのみちしぐさ～COOL CHOICE 編～デザイン作成	灰谷 謙二 青井 典子	—	尾道市(市民生活部環境政策課)
	「香味甘酒」パッケージデザイン作成	伊藤 麻子	美術学科 1名	(株)上野屋本舗
	アート偏光板を活用した地域活性化企画	野崎 眞澄	美術学科 7名	日東電工(株)尾道事業所
令和元	AI画像認識技術により水産塩干物製造における異物を特定するソフトウェアを制作する	木村 文則 本田 治 木村 文則 本田 治	経済情報学科 2名 経済情報学科 3名	(株)カタオカ
	「尾道グルメマップ」表紙デザイン作成	野崎 眞澄	美術学科 1名	グルメ・海の印象派—おのみち—実行委員会
	尾道市シティセールス用ビニール袋デザイン制作業務	地域総合センター 青井 典子	—	尾道市(総務部秘書広報課)
平成30	「2019年版どんぐり工房カレンダー」等のデザイン案の製作等	世永 逸彦	美術学科 2名	(福)尾道さつき会
	「尾道グルメマップ」表紙デザイン作成	野崎 眞澄	美術学科 1名	グルメ・海の印象派—おのみち—実行委員会
	AI画像認識技術により水産塩干物製造における異物を特定するソフトウェア制作	木村 文則	経済情報学科 2名	(株)カタオカ

受託研究等一覧表

年度	研究題目	対応者		相手先
		教職員	学生	
平成 30	しまなみ海道開通 20 周年記念事業の取り組みの一環として、シンボルマークデザイン（案）制作	野崎 眞澄	美術学科 1 名	瀬戸内しまなみ海道開通 20 周年記念事業実行委員会（本州四国連絡高速道路株式会社しまなみ尾道管理センター）
	「尾道文化」2019NO.37 の表紙等デザイン作成	野崎 眞澄	美術学科 1 名	尾道市文化協会
	尾道港開港 850 年記念シンボルマークデザイン案作成	野崎 眞澄	美術学科 1 名	尾道港開港 850 年記念実行委員会（尾道市港湾振興課）
	民間学童施設の事業効果の分析	金田 陸幸	-	三菱UFJ リサーチ&コンサルティング（株）（日本財団）
平成 29	「2018 年版どんぐり工房カレンダー」等のデザイン案の製作等	高岡 陽	美術学科 2 名	（福）尾道さつき会
	尾道造船株式会社 社員証等のデザイン作成	野崎 眞澄	-	尾道造船（株）
	尾道市社会福祉協議会ブックスタートのバッグデザイン作成	野崎 眞澄	美術学科 1 名	尾道市社会福祉協議会
	大信産業株式会社 100 周年記念ロゴ、名刺デザイン作成	世永 逸彦	美術学科 1 名	大信産業（株）
	「尾道グルメマップ」表紙デザイン作成	高岡 陽	美術学科 1 名	グルメ・海の印象派—おのみち—実行委員会
	デート DV 防止キャラクターデザイン作成	野崎 眞澄	美術学科 1 名	尾道市（福祉保健部社会福祉課）
	尾道市文化協会「尾道文化」表紙等デザイン作成	野崎 眞澄	美術学科 1 名	尾道市文化協会
	紙芝居制作	光原 百合 高岡 陽	美術学科 2 名 日本文学科 1 名	堂本時夫
尾道市制 120 周年記念行事シンボルマーク制作	野崎 眞澄	美術学科 1 名	尾道市（総務部総務課）	
平成 28	採用支援支援サイトのコンテンツ制作	青井 典子	-	（有）備後レポート社

年度	研究題目	対応者		相手先
		教職員	学生	
平成 28	清涼飲料水の商品名、デザイン案（販促物含む。）作成	高岡 陽	－	丸善製薬（株）
	「しまなみ海道トライアスロン大会 in 尾道」大会ロゴ等デザイン	高岡 陽	美術学科 1 名	しまなみ海道トライアスロン
	「2017年版どんぐり工房カレンダー」等のデザイン案の製作等	高岡 陽	美術学科 1 名	(福) 尾道さつき会
	尾道市立美木原小学校校章制作業務	世永 逸彦	－	尾道市（教育委員会事務局学校経営企画課）
	美木原小学校校歌作詞業務	光原 百合	－	尾道市（教育委員会事務局学校経営企画課）
	健康づくり研修用DVD作成業務	高岡 陽	美術学科 3 名	尾道市（健康推進課）
	あじば農園レモンケーキのパッケージ等デザイン作成	世永 逸彦	美術学科 4 名	井場淳一郎
	ウエルカムおのみちカード等制作業務	野崎 眞澄	美術学科 1 名	尾道市（市民課）
	『尾道の本』部分デザイン作成	青井 典子	－	(有) 備後レポート社
	グルメマップ表紙デザイン制作	高岡 陽	美術学科 1 名	(株) 村上オフセット
	「尾道文化」表紙デザイン作成	野崎 眞澄	美術学科 1 名	尾道市文化協会
	尾道国際ホテル等デジタルガイドのページデザイン作成	青井 典子	－	(有) 備後レポート社
	(仮) ニンジンとトマトのドレッシング ラベルシール作	青井 典子	－	(有) 備後レポート社
有限会社備後レポート社発行『まい日こころ晴ればれ』部分デザイン作成	青井 典子	－	(有) 備後レポート社	
平成 27	「おのみちブランド農産物」ロゴマークデザイン作成	世永 逸彦	美術学科 5 名	尾道市（農林水産課）
	グルメマップ表紙デザイン制作	高岡 陽	美術学科 1 名	(株) 村上オフセット

受託研究等一覧表

年度	研究題目	対応者		相手先
		教職員	学生	
平成 27	どんぐり工房カレンダー等のデザインに係る連携協働	高岡 陽	美術学科 1 名	(福) 尾道さつき会
	寺岡有機農場 企業パンフレットデザイン制作	野崎 眞澄	美術学科 2 名	寺岡有機農場 (有)
平成 26	社会福祉法人 原田ヒカリ会の法人理念を形式的な図表で表現	高岡 陽	-	(福) 原田ヒカリ会
	尾道しぐさ	高岡 陽 灰谷 謙二	-	尾道市 (環境政策課)
	尾道の民話・伝説の紙芝居作成	光原 百合 高岡 陽	日本文学科 3 名 美術学科 3 名	尾道市 (中央図書館)
	グルメマップ	高岡 陽	美術学科 2 名	(株) 村上オフセット
	平成 26 年度今治市大三島美術館夏季特別展示業務	美術学科教員	-	今治市 (大三島美術館)
	尾道市立因島南小学校校章制作業務	高岡 陽	-	尾道市 (教育委員会事務局学校経営企画課)
	行政視察広報用チラシデザイン作成	高岡 陽 灰谷 謙二	-	尾道市 (市議会)
	どんぐり工房カレンダー等のデザインに係る連携協働	高岡 陽	美術学科 1 名	(福) 尾道さつき会
	グループ名称、グループマーク作成	高岡 陽	-	(株) 円福寺
	中国横断自動車道尾道松江線の愛称 P R のためのデザイン制作業務	高岡 陽	-	中国横断自動車道尾道松江線建設促進期成同盟会
Web デザイン制作	高岡 陽	-	しんがいの未来を考える会	
平成 25	サンワファームデザイン、三和鉄構地図作成	高岡 陽	美術学科 4 名	三和鉄構建設 (株)
	せらワイナリーのワインパッケージデザイン作成	高岡 陽	美術学科 1 名	(株) セラアグリパーク
	こだま食品株式会社商品群毎のデザイン統一	高岡 陽	-	こだま食品 (株)
	こだま食品株式会社商品パッケージ等のデザイン案作成	高岡 陽	美術学科 2 名	こだま食品 (株)

年度	研究題目	対応者		相手先
		教職員	学生	
平成 25	Web サイト作成	高岡 陽	経済情報学科 3 名 美術学科 3 名	(株) ゆきひろ
	尾道の民話・伝説の紙芝居作成	光原 百合 高岡 陽	日本文学科 3 名 美術学科 3 名	尾道市 (中央図書館)
	どんぐり工房カレンダー等のデザインに係る連携協働	高岡 陽	美術学科 1 名	(福) 尾道さつき会
	景観スポットの選定	稲田 全示 桜田 知文	-	しまなみ地域活性化推進協議会連合体
平成 24	植物エキス配合飲料商品名及び商品デザイン案作成	高岡 陽	-	丸善製菓 (株)
	桂花エキス配合食品商品名及び商品デザイン案作成	高岡 陽	-	丸善製菓 (株)
	看板デザイン作成	岡本 奈都美	-	尾道市 (てっぱん協議会)
	尾道の民話・伝説の紙芝居作成	光原 百合 高岡 陽	日本文学科 3 名 美術学科 4 名	尾道市 (中央図書館)
	海フェスタの経済効果算出業務	井本 伸	-	尾道市 (海フェスタ推進協議会)
	野間川ダム・ダム湖名称説明看板デザイン作成	野崎 眞澄	美術学科 4 名	広島県
	どんぐり工房カレンダー等のデザインに係る連携協働	高岡 陽	美術学科 1 名	(福) 尾道さつき会
おのみちしぐさ・自転車マナー啓発ポスター等作成	高岡 陽	-	尾道市 (環境政策課)	

古民家モチーフ 木製パズル提案

尾道市立大の岡田さん

尾道市立大美術学科デザインコースの3年生が、尾道の活性化をテーマに制作した作品の発表会が25日、尾道市東御所町のしまなみ交流館であった。古民家をモチーフにした木製パズルを提案した岡田美空さん(20)がグランプリに輝いた。



古民家をモチーフにしたパズルでグランプリに輝いた岡田さん

選ばれた10人が、立体選形やグラフィックス、イラストなどで企画を発表した。岡田さんの作品は、3ヶ所四方ほどの古民家のミニチュアを組み立て、坂道を横にした土台などにはめ込むパズル。テレビから大人まで楽しめるお土産になる」とアピールした。

そのほかの学生からは、尾道特産のイチジクのギフト用パッケージや、レトロな店の外観をプリントした靴下、民話や伝説を題材にした絵巻物集などの提案があった。それぞれの発表に対し、市内のNPO法人代表や経済団体メンバーたち8人のアドバイザーが講

評。表現性を高める工夫などを助言した。制作は同コース3年の27人が授業の一環で取り組んだ。発表した10人の作品は30日、8月11日に、市立大サテライトスタジオオ(同市土堂)で展示される。

(久保木要)

尾道の魅力 デザインで 美術学ぶ市立大生が発表会

尾道市立大美術学科デザインコース3年生による、尾道や出身地を題材にしたグッズやウェブサイトなどの企画発表会が7日、同市東御所町のしまなみ交流館市民ギャラリーであった。



「おのみち裏通り新聞」を紹介する大石さん

各企画は、9日まで同ギャラリーで展示されている。午前9時〜午後3時。(田中謙太郎)

架空の「おのみち裏通り新聞」は、漁師が信仰する観音堂や化け猫が営む食堂など、空想ながらまちの生活文化を重ねた記事を載せた。レトロな広告もデザインした。専用ウェブサイトも設けた。制作した大石朋代さん(21)は「創作意欲を刺激する尾道の風土を伝えたい」と話した。昭和の新聞も参考にしたという。

尾道新聞令和元年12月27日掲載

©尾道新聞社



環境に配慮した生活を

工房尾道帆布 ECOで可愛い新商品

尾大「地域活性化企画」コラボデザイン

「深刻な地球温暖化問題が報道されている今、人にも環境にもやさしい暮らしをしよう。人ひとりが心掛け行動に移そう」とそんな思いの込められた「おのみちECOプロジェクト」の商品が、NPO法人工房尾道帆布（上京2丁目、山口基子理事長）から、30日（月）より販売されます。

バイオマスのレジ袋を持ち歩く事を提案する、新作のエコバッグ

模様をデザインをした尾大の織村さんと、キッチンシリーズの商品

この商品開発のきっかけになったのは、今年7月に行われた尾道市立大学の「地域活性化企画発表会」で「階段と猫」というデザインを発表した織村風紗さんとの出会いでした。

階段で佇む猫の写直から着想を得た尾道らしく可愛い織村さんのデザインを見て、尾道帆布のメンバーが商品に活かせるかかと声をかけコラボが実現。織村さんも一瞬になり商品開発の会議を重ねました。

その結果、女性に人気が出そうなデザインを生かし、ただ可愛いだけでなく、女性の視点から環境にやさしい行動を促すきっかけとなるような商品展開をする。この「KITCHEN」シリーズの商品（写真右の「ランチバッグ」は、ランチタイムに弁当と水筒を持参し、使い捨てを減らす活動を促します。箸入れやランチシートなどもお揃いで、展開色は期間限定で、緑・赤色・ピンクがあり、それぞれ猫が佇んで、いそうな「木履」「坂道」「飯」をイメージした優しい色です。

そしてエコバッグとして、ショルダー付きのもの（写真左）も、リサイクルでも使える大容量の物の種類を販売。エコバッグも、植物資材から作られたバイオマスのレジ袋が付いており、それを取り付けられるストラップ付き。旅先で出たゴミを自分で持ち帰ろうという発想から生まれました。

織村さんのデザインは全ての商品に使われており、私自身が最初に取り扱ったのは、風呂敷でしたが、それがこんなにたくさんの高品質に展開されるとは思ってもいませんでした。

た、帆布の丈夫さがあってこそ、織村さん、尾道帆布の木織雅子さんは、元々、尾道帆布は自然の物を利用した環境に優しい素材から商品づくりでも、エコな暮らし方を提案していきたい。このシリーズも、エコに協力しているという気持ちも添えて提供していきたい。と話しています。

ごみを出さない、持ち帰る環境を考え素材を選んだ尾道帆布の新商品は、小さなことから少しずつ、行動に移す事を提案しています。

【織村風紗】

目次

講演会より

昔話の伝承世界 — 仏教説話と地域文化の変容 —

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授 藤井 佐美 ————— [2]



藤井 佐美 (ふじい さみ)

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授 博士(文学)
 民俗学・伝承文学担当
 仏教説話や昔話の研究を資料調査とフィールドワークにより進めています。
 祭祀・儀礼・芸能・遊戯・地域文化にも注目し、語りと読みが響き合う世界を楽しみながら日本の伝承文化を研究しています。毎年、日本文学科企画・地域貢献事業〈尾道文学談話会〉を開催しています。みなさまのご参加をお待ちしています。

【講演会より】

昔話の伝承世界 — 仏教説話と地域文化の変容 —

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授
 藤井 佐美

本稿は、令和元年一月二五日(月・友引)に広島県尾道市西國寺持佛堂で開催された真生会創立五〇周年記念講演会からの紹介です。当会は尾道市を中心とする近隣の真言宗寺院青年僧侶の方々による会です。当日は御法楽の後の約一時間三〇分(14:50～16:20)、仏教説話と地域の昔話をめぐる伝承の魅力についてお話ししました。紙面の都合上、割愛した内容も多分にありますのでご了承ください。

1 伝承の研究

こんにちは。高い所から失礼いたします。ご紹介いただきました尾道市立大学の藤井佐美と申します。さきほどは真生会五〇周年の記念法要に坐らせていただきお礼を申し上げますとともに、心よりお祝いを申し上げます。本当におめでとうございます。記念講演にふさわしい内容となるかどうかは分かりませんが、精一杯つとめさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、伝承の研究、仏教説話、地域文化という三つの観点から進めてまいります。まずは自己紹介を兼ねて日頃よりわたくしが追いかけております研究テーマからお話をいたします。

大学では民俗学、伝承文学、地域文化に関わる講義を担当しておりますが、個人の研究テーマは一言で申しますと「説話」であり、仏教関係の資料と昔話を含む口承文芸という二つの大きな柱をもって、語られた譬喩因縁話、口伝の物語世界を読み解き、それらを語り手、聞き手、時と場所、目的や享受の問題とともに研究しております。これまでの主な

著書の中から四つほどご紹介しますと、

○真言系唱導説話の研究 付・翻刻 仁和寺所蔵『真言宗打聞集』(三弥井書店、学術振興会助成図書)

○中世文学と隣接諸学 8 中世の寺社縁起と参詣(竹林舎)

○琉球の伝承文化を歩く 4 八重山・石垣島の伝説・昔話(三弥井書店)

○47都道府県・民話百科(丸善出版、「広島県」「愛媛県」担当)

というように前半分は仏教関係の資料から説話を分析しております。後ろ半分のうちの一つは学生時代から歩いております沖縄県石垣島に関する内容です。そして、偶然ですが本日(講演日)が刊行日の『47都道府県・民話百科』は全国の民話に関する一般向けの解説書で、広島県と愛媛県の民話を十話ずつ解説しております。後ほどその一部をご紹介します。一見してかけ離れた研究領域に思われるかもしれませんが、このような二つの分野が交錯する様子について、本日はお話をさせていただきます。

まず、仏教関係の調査資料から少しご紹介しますと、『かくはんしょうにんてんぼう覚鑿聖人伝法えだんぎうちきしゅう会談義打聞集』(高山寺本、仁和寺本、一二世紀頃)という新義真言宗の祖である覚鑿の教学談義を聴いた弟子のノートが残っております。その中に甲斐国にあった笠着寺の話として、以下の内容が記されております。

甲斐国笠着寺ノ因縁。郡司従者女ヲ、笠ヲ仏ニキセタル故ニ国司ノ子小太郎殿ニヲモハレテ、後太郎[□]殿又甲斐国司トナル。其頃政所ト云ハ、件郡司カ従者女也。

これは昔話「笠地蔵」とも重なるような話ですが、ほかでは確認でき

ないこのような話を覚鑿が真言宗教学を伝える談義の中で話題にしていたことが分かります。この資料は説話文学史の上でも長い間注目されていながらも伝本整理がされていなかったことから、わたくしが仁和寺で単独調査をおこないまして、ようやく内容の把握が可能となり、真言宗中興の祖である覚鑿の談義唱導の様子が見えてまいりました。

また、研究を継続しております一つに、一四世紀頃に成立した『せつぎょう説経さいがくしょう才学抄』がございませう。別名「大須観音」と呼ばれる名古屋真福寺に所蔵される真言僧向けの説草、いわゆる説経の種本、手控えのような内容で、その中に以下のような話が含まれております。

布施事

或女房ノ清水ニ籠タリケルツホネノ前ニ、色ハミサレホヒタル尼ノ影ノ如ク瘦セ衰ヘタルカ出来テ、物ヲ乞ヒアリク有リケリ。十月ハカリニ破タル帷ノキタナケナルヲ、タ、一ツ着テ上ニ衰ヲ重ねテ着タリケレハ、見ル物アナイミジノサマヤ、雨モフラスニ、ナトミノヲハ着タルソト云、此ヨリ外ニ持タル物ハ無シ、寒サハサムシスヘキ様ナクテナント答ルニ、アタ、マリアルヘシトコソ覚ネト云ヒテ、カタヘハ笑ヒケリ、菓物ナントトラセタルハ、ウチクヒツ立チケルヲ、云何思ヒケン呼ビ返シテ、ヒトヘヲトラセタルハ、悦ヒテ取テキヌルト思程ニ、ヤカテ同寺ニ奉加スル所ニ行テ、硯ヲ乞テイトウツクシキ手ニテ、此ノ歌ヲカキツケツ、ヒトヘヲ置テ、イツカトトモ無ク隠レニケリ

カノキシニコキハナレニシアマナレハ、ヲシテツクヘキウラモ、タラス

この「布施事」の季節は旧暦一〇月頃、ちょうど今頃ですが、清水寺

に参籠していた乞食の尼が粗末な衣と蓑だけで寒々としていたところ、周りの人が笑いながら食べ物と単衣を与えると、尼はその衣を寺に奉納してどこかへ去って行きました。そのとき、大変美しい筆による和歌が残されており、内容も素晴らしく、これこそ本来の布施であると説いております。和歌「カノキシニ……」は、

彼岸をめぐしてこの世を離れた尼ですから、単衣に裏がないのと同じように、櫓を押してたどり着く浦など私にはありません。

という意味です。この話は鴨長明の『発心集』「乞食の尼、単衣を得て寺に奉加する事」、『十訓抄』「蓑衣の尼の歌と書」、『三国伝記』「乞食の尼、単衣を得て清水寺に奉加する事」にも引用されており、鎌倉から室町時代にかけての説話文学の世界ではお馴染みの話ですが、実際に語られたであろう説教の手控えの中にもこのように記されていたことから、かつての唱導の様子をうかがい知ることができます。つまり、説教の手控えである説草は、話が生まれ、語られ、そして後世へと伝えられていく、いわば伝承の様子を考える上では格好の素材といえます。

ところで、このような談義や説教のような口頭伝承に注目すると、それは必ずしも教学的側面や伝統芸能に見るような相伝の世界に限らず、実は現代の我々が「民話」と呼んでいるような分野とも深く結びついていることにも気づかされます。

「昔々……」に始まる昔話、固有名詞を明らかにして歴史を物語ろうとする伝説、噂話や怪談、都市伝説とも関わる世間話などは口から耳へと伝えられてきた内容であり、それはある段階で文字をとめないながら、ふたたび語りの世界へと受け継がれていきました。このような口承と書承が響き合いながら行きつ戻りつする伝承の様子は、学僧達が師の教えを筆録した談義唱導の場合や、市井における説教唱導の場合も同様です。もちろん伝承の研究方法は多様にあります。ここでは一つのハナシを

細かく分析しながら、少しずつ形を変えてゆく伝承の様子に注目してみたいと思います。

2 仏教説話

わたくしどもが昔話と呼ぶ話の歴史をたどりますと、このような話は唱導において格好の素材であったことが分かります。たとえば、奈良薬師寺の僧景戒による『日本国現報善悪霊異記』（以下、『霊異記』）は平安時代初期に編まれた日本最古の説話集ですが、ここには神仏・人間・動物の奇異譚・因果応報話が集められており、その後の多くの文学作品や仏書においても「霊異記に曰く」とたくさんの話が引かれていきました。特に恩返しの話や昔話や偉人の歴史を物語る話に注目してみますと、「狐女房」（上巻第二縁）、「亀の恩返し」（上巻第七縁）、「鷲の育て子」（上巻第九縁）、「鬪闘の恩返し」（上巻第二二縁、下巻第二七縁）、「役行者」（上巻第二八縁）、「蟹の恩返し」（中巻第八縁、第二二縁）、「鬼の恩返し」（中巻第二五縁）、「蛇婿入り」（中巻第四一縁）のように、現在も身近な話のルーツを見つづけることができます。

さて、ここからはこのような仏教説話に注目しながら伝承の変容を見てまいります。ご紹介するのは昔話の話名で「猿の生き肝」別名「海月くらげの骨なし」と呼ばれる話です。簡単なあらすじは以下の通りです。

- (1) 竜宮の乙姫が病気になる、猿の生き肝を食べると治るといので、海竜王の命令により亀が猿を騙して竜宮城へ連れて行くこととする。
- (2) 途中、海月が猿に真相を告げてしまう。
- (3) 猿は肝を木に干して来たと言いい亀を騙して陸に帰らせる（+猿により亀の甲羅が割られる）。

(4) 王は怒り密告者の海月の骨を抜いてしまふ。

この話は『靈異記』がこだわったような国内にとどまる内容ではなく、古代インド説話集『パンチャタントラ』四「猿の心臓を取りそこなった鰐」をはじめ、多くの伝承話が知られています。ここではその中でも特

に三つの「猿の生き肝」に注目してみたいと思います。以下の表は、文字資料で残されている「猿の生き肝」の内容を①から④に区切った比較表です。注目箇所には傍線を付しておりますが、登場人物や台詞、教訓や話の結び方もそれぞれ違っております。

【仏教説話「猿の生き肝」の比較】

構成	説話	1、『生経』一の一〇「佛説龜獼猴經」 (大正新修大藏經第3巻・本縁部)	2、『注好選』下巻一三「猿は退きて海底の菓を囓る」 (岩波新日本古典文学大系)	3、『今昔物語集』天竺部巻五の二五「亀、猿の為に謀られたる語」 (岩波新日本古典文学大系)
① 前説	聞如是。一時佛遊舍衛祇樹給孤獨園。與大比丘衆千二百五十人俱。時諸比丘。會共議言。有此暴志比丘尼者。棄家遠業。而行學道。歸命三寶。佛則爲父。法則爲母。諸比丘衆以爲兄弟。本以道法而爲沙門。遵修道誼。去三毒垢。供侍佛法及比丘僧。愍哀一切。行四等心。乃可得度。而反懷惡。謗佛謗尊。輕毀衆僧。甚可疑怪。爲未曾有。時佛徹聽。往問比丘。屬何所論。比丘具啓向所議意。於時世尊告諸比丘。此比丘尼。不但今世念如來惡。在在所生。亦復如是。吾自憶念。	昔、海辺の山に一つの獼猴有り。木の実を喰ふ。	今昔、天竺の海の辺に一の山有り。一の猿有りて菓を食して世を過ぐす。	
② 猿	乃往過去無數劫時。有一獼猴王。處在林樹。食果飲水。愍念一切。岐行喘息。人物之類。皆欲令度使至無爲。			
③ 猿と亀	時與一龜以爲知友。親親相敬初不相忤。龜數往來。到獼猴所。飲食言談。說正義理。			
④ 亀の妻	其婦見之數出不在。謂之於外姪蕩不節即問夫智。卿數出爲何所至。將無於外放逸無道。其夫答曰。吾與獼猴。結爲親友。聰明智慧。又曉義理。出輒往造。共論經法。但說快事。無他放逸。其婦不信。謂爲不然。又瞋獼猴誘誅我夫數令出入。當圖殺之。吾夫乃休。因便	即ち海底に二つの亀有り。夫婦なり。婦の云はく、「吾汝が子を懐めり。而るに腹の病有りて産み難し。汝吾に吉き薬を食はせば、平かに身を存して汝が子を生まむ」と。時に夫の云はく、「何なる薬を用るべき」と。答へて云はく、「吾聞く、猿の肝は是腹の病の第一の	其の辺の海に二の亀有り、夫婦也。妻の亀、夫の亀に語りて云はく、「我、汝が子を懐任せり。而るに我腹に病有りて定めて産み難からむ。汝、我に薬を食はせば、我が身平かにて汝が子を生じてむ」と。夫、答へて云はく、「何を以て薬とはすべきぞ」と。妻の云は	

	<p>伴病。困劣著床。其聲瞻勞。醫藥療治。竟不肯差。謂其夫言。何須（勿復）勞意損其醫藥。吾病甚重。當得卿所親親。獼猴之肝。吾乃活耳。其夫答曰。是吾親友。寄身託命。終不相疑。云何相圖用以活卿耶。其婦答曰。今爲夫婦。同共一體。不念相濟。反爲獼猴。誠非誼理。其夫逼婦。又敬重之。</p>	<p>葉なりと。吾之を得むと欲ふ」と。</p>	<p>く、「我聞けば、猿の肝なむ腹の病の第一の葉なる」と云ふに、</p>
<p>⑤ 海へ</p>	<p>往請獼猴。吾數往來。到君所頓。仁不枉屈詣我家門。今欲相請到舍小食。獼猴答曰。吾處陸地。卿在水中。安得相從。其鼈答曰。吾當負卿。亦可任儀。獼猴便從。負到中道。</p>	<p>時に夫海岸に至りて、彼の猿の辺に近づく。時に龜問ひて云はく、「汝此に住みて、万の物に足れるや」と。猿の云はく、「一生乏し」と。龜の云はく、「吾が住む近き辺に、四季に菓絶えぬ広き林有り。去來、汝を將て行きて飽かしめむ」と。時に猿往を吟く。龜の云はく、「吾が背に乗れ。將て行かむ」と。即ち猿龜の背に乗りて、水に入りて海底に至る。</p>	<p>夫、海の岸に行きて、彼の猿に値ひて云ふ様、「汝が栖には万の物豊か也や否や」と。猿答へて云はく、「常には乏しき也」と。龜の云はく、「我が栖の近き辺にこそ四季の菓、蕨絶えぬ広き林は有れ。哀れ、汝を其の時に將て行きて飽くまで食はせばや」と。猿、謀るをば知らずして喜びて、「いで、我行かむ」と云へば、龜、「さらば、いざ給へ」と云ひて、龜の背に猿を將て行て、</p>
<p>⑥ 真相</p>	<p>謂獼猴言。仁欲知不。所以相請。吾婦病困。欲得仁肝服食除病。</p>	<p>龜猿に語りて云はく、「汝聞け。吾が妻は任める者なり。而るに腹の病有り。仍りて汝が肝を取りて薬に爲む。敢へて海底に菓無し」と。</p>	<p>龜の猿に云はく、「汝知らずや。実には我が妻懷任せり。而るに腹に病有るに依りて、『猿の肝なむ其の葉なる』と聞きて、汝が肝を取らむが爲に謀りて將て来たれる也」と。</p>
<p>⑦ 陸へ</p>	<p>獼猴報曰。卿何以故。不早相語。吾肝掛樹不齋持來。促還取肝。乃相從耳。便還樹上。跳踉歡喜。</p>	<p>即ち猿答へて云はく、「汝甚だ口惜しきかな。隔つる心有り。聞かずや見ずや。吾等が党は本より身の中に肝無し。只傍の木に懸け置き所なり。若し彼に於て言はましかば、或いは吾が肝、及び他の肝を取り与へてまし」と。時に龜喜びて言はく、「汝は是実なる者なり。吾俱に返らむ。其の肝を得しめよ」と。時に龜の背に乗りて本の如く山に返りて、高き木に登りて</p>	<p>猿の云はく、「汝、甚だ口惜し。我を隔つる心有りけり。未だ聞かずや、我等が党は本より身の中に肝無し。只、傍らの木に懸け置きたる也。汝かしこにて云はましかば、我が肝も亦、他の猿の肝も取りて進てまし。譬ひ自らを殺し給ひたりとも身の中に肝の有らばこそ、其の益は有らぬ。極めて不便なる態かな」と云へば、龜、猿の云ふ事を笑と信じて、「さらばいざ將て還へらむ。肝を取りて得させ給へ」と云へば、猿、「其は余安き事也。有りつる所へだに行き着きなば、事にも非らぬ事也」と云へば、龜、前の如く背に乗せて本の所に至りぬ。打ち下したれば、猿、下る、ま、に走りて木の末に遙かに昇りぬ。</p>

⑧ 問答	時鼈問曰。卿當齋肝來到我家。反更上樹。跳踉踴躍。爲何所施。獼猴答曰。天下至愚。無過於卿。何所有肝而挂在樹。共爲親友。寄身託命。而還相圖。欲危我命。從今已往。各自別行。	下さまに向ひ見て云はく、「吾は墓無し。海中に菓有らむや。亀は墓無し。身を離れて肝有らむや」と。 ※ 問答ナシ（猿の言葉）	見下ろして、猿、亀に向ひて云はく、「亀、墓無しや。身に離れたる肝や有る」と云へば、亀、「早く謀りつるにこそ有りけれ」と思ひてすべき方無くて、木の末に有る猿に向ひて、云ふべき様無きまゝ、に、打ち見上げて云はく、「猿、墓無しや。何なる大海の底にか菓は有る」と云ひて、海に入りけり。
⑨ 結び	佛告比丘。爾時鼈婦則暴志是。鼈者則調達是。獼猴王者則我身是。佛説如是。莫不歡喜。	此譬へは、即ち亀とは提婆達多なり。猿とは釈迦如来なり。昔、提婆達多仏を失ひ奉らむとす。しかれども仏の方便勝りたるが故に、遂に勝ちて、一切衆生の為に正覚を成じ、法を説きて衆生を度したまふと言へり。又外典に云はく、「抱朴子」が云はく、五百年の猿は化して老人と為る」と。云々。	昔も獸はかく墓無くぞ有りける。人も愚痴なるは此等が如し。かくなむ語り傳へたるや。

では、比較表の最下段に示しました3『今昔物語集』の内容を確認してまいります。「今は昔」ではじまる段の本文をそのまま左に向かってご覧ください。

『今昔物語集』

- ①最上段の『生経』が説き明かす前説に相当する内容が含まれてないため空欄にしておりますが、これについては後ほどご説明します。
- ②天竺の海辺の山に猿が一匹いました。
- ③この空欄は、猿と亀の関係を明かす内容ですが『今昔』にはありません。
- ④海には二匹の夫婦の亀がいて、妻が夫に「妊娠したけれど、お腹に病気があるから菓が欲しい」と言います。夫が「何が菓か」と問うと、妻は「お腹の病気には猿の肝が一番よく効くらしい」と言います。

- ⑤夫の亀が海岸に行き、猿に向かって「お前の世界は物が豊かにあるかと尋ねます。猿は「いや、乏しい」と。亀は「私の住む所には季節の食べ物がたくさんあるから、おまえを連れて行ってやりたい」と。猿は喜んで「それなら行きたい」と。亀は「じゃあ行こう」と言つて、亀の背中に猿を乗せて行きます。
- ⑥亀が猿に「お前は知らんだろうが、私の妻が妊娠してお腹の病気に効くという猿の肝が必要なので、おれが騙して連れてきたんだ」と言います。
- ⑦猿が亀に「お前と俺の中だと言うのに。俺たち猿はもともと身体の中に肝があるわけじゃないんだ。今ちようど木に掛けてきたんだ。あそこで話してくれていたら、自分や仲間の肝も一緒にやったのに。たとえ、自分を殺したとしても身体の中に肝があつてこそ役に立つだろうが、残念だな」と言いますと、亀はそれを信じて「じゃあ、帰つて肝

を取って来てくれ」と。猿は「たやすいことだ。帰ってそうしよう」と言って、また亀の背中に乗って帰り、下りたら木の上に急いで駆け登っていきました。

⑧猿が亀に向かって「バカな奴だ。身体から離れて肝があるものか」と。亀は「騙したな」と言い、もはやどうしようもないので猿に向かって、「猿はバカな奴だ。どこの海の底に木の実なんかあるもんか」と言い去って行きます。

⑨以上の問答を踏まえて、昔は動物もこんなに愚かであったし、人間も愚か者というのはこのようなものと結びます。

ご存じの通り『今昔物語集』（以下、『今昔』）は平安時代の説話集で、编者については南都興福寺や叡山に関わる指摘もごさいますが未詳です。「今は昔」ではじまり「……となむ語り伝へたるとや」で結ぶ和漢混交文で書かれた全三一巻、一〇五九話が天竺部、震旦部、本朝仏法部、本朝世俗部で構成され、その内容は老若男女、犯罪者、鬼や妖怪の話など多岐にわたっており、我が国の説話集の代表と言える作品です。意外にも江戸時代までは存在され知られていませんでしたが、現在では芥川龍之介のような作家が小説の素材にしたことでも知られており、古典の教材としても有名な書物です。

ご紹介する三つの作品の中では『今昔』が一番シンプルな結末といえます。⑨の結びでも教義に関する内容は含まれず、動物を引き合いに人間の愚かさを説きます。

さて、この『今昔』の出典の一つと注目されるのが、比較表の真ん中の段に配置した2『注好選』です。

『注好選』は、およそ『今昔』と同じ展開ではありますが、同文的な一致を持つ内容ではありません。たとえば、陸に帰った後の⑧の問答の場

面がなく、ここでは猿の台詞だけがあります。そして、特に『注好選』では⑨の結び方が興味深い点と言えます。そこでは、「亀と猿」の正体を「提婆達多と釈迦如来」であると明かし、その上で、『抱朴子』という三世紀頃の道教研究者である晋の葛洪（かつこう）による書物に基づき、「過去世の猿が現在世で釈迦に転生した話」と本話をまとめています。

『注好選』も編者は未詳ですが、一二世紀初め頃には成立していたとされる説話集です。全三巻で、世俗的な中国説話（上巻）、仏典に由来するインドの仏教説話（中巻）、仏典や漢籍に基づく動物の故事因縁説話（下巻）などが収録されています。中世期には真言宗開祖の「空海作」とする仮託説もあったようですが、編者未詳ながらも儒仏兼学の学僧によって童蒙教訓、特に貴族・官僚・寺家の子弟教育のために編集された作品です。

つまり、この「猿の生き肝」の場合も仏教思想入門者への配慮がうかがえ、大変理解しやすい内容にまとめられていることをご理解いただければと思います。

では、いよいよ比較表の最上段の1『生経』を確認してまいります。本日はみなさま方とご一緒に読ませていただく貴重な機会でもございますので、梗概の説明ではなく大蔵経本文の読み下しをおこないながら少しずつ確認してまいります。

※講演会では読み下しの後に以下①〜⑨の解説をおこないました。

『生経』「仏、鼈と獼猴とを説く経」

①仏が大勢の弟子に暴志比丘尼という人物の経歴を紹介します。最初は熱心な仏教徒であったけれど、その後悪心を抱き、どこの世に生まれ変わっても同じであり、その具体的な話として、「猿の生き肝」の話が、

ここから仏により物語られていきます。

②その昔、林の中に済んでいる猿の王様は、不正や苦しんでいる万物を哀れみ、救いの心を持っていました。

③あるとき、亀と友達になって、しばしば会って話し合っていました。

④妻の亀は、夫がしばしば外出するのを浮気と疑って夫を問いただしません。しかし、夫の言葉が信じられない妻は猿を殺したいと思い、仮病をつかって猿の肝を要求します。夫は親友の命を取ることを断りますが、妻は自分のほうが大事なはずだと責め立て、ついに夫は折れます。

⑤亀は猿に向かって、「私は時々あなたの所に来るが、あなたは一度も我が家に来てないから、食事に来ませんか」と招待します。猿は「どうやって水中を行くのか」と尋ねると、亀は「私が背負うから任せなさい」と行って、そのようにして途中まで行きました。

⑥途中、亀は猿に向かって、「あなたは知らないだろうが、実は私の妻が病気で猿の生き肝を薬に欲しがっているんだ」と言います。

⑦猿が答えるには、「もっと早く言ってくれば良いのに。肝は木に掛けて来たから、帰って取って来て、また一緒に行きましょう」と言って、陸に帰って来て、猿は木の上で飛び上がって喜んだ。

⑧そこで、亀は猿に向かって「肝を持って我が家に来ると言ったじゃないか。それなのに木の上で喜んでいて、何をくれると言った」と言うと、猿は「お前は天下一の愚か者だ。どうして肝を木に掛けることなどするだろうか。親友だと思っていたのに、私の命を取ろうなどもつてのほかだ。これからは別の道を進もう」と言います。

⑨仏が弟子に言うことには「その時の亀の妻が、話題となっている暴志比丘尼だ。亀は提婆達多で、猿の王とは私・釈迦のことだ」と。

『生経』（本生経）はサンスクリットのジャータカ、つまり過去と現在の

因果関係を示す内容で本生話、前世譚です。全五巻、五五経で構成されています。西晋の竺法護の訳（西暦二八五）で、釈尊自身が語った物語も含め、主人公を釈尊の前世である菩薩として編集された内容です。インドの伝説や昔話などの口碑に仏教的内容が付け加えられており、イソップ寓話集、アラビアンナイト、グリム童話にも影響を与え、日本でも多くの説話文学作品の題材となった書物です。この「猿の生き肝」については『経律異相』二二三の二三に転載された他、『六度集経』四の三六、『本行集経』三一、『法苑珠林』五四にも転載されたことが知られています。『生経』に掲載される本話の大きな特徴は、我が国の『注好選』が採用した動物の正体を明かす点にありますが、ここでは猿と亀だけでなく亀の妻の正体も含まれていたことが分かります。全体を通して分かりやすい展開となっており、登場人物の説明が冒頭と結末で見事に一致しているだけでなく、特に夫婦の会話などは他の二作品よりも詳しく、物語性に富む内容と言えます。

このように、三つの話は大筋では同じ話ですが少しずつ印象が異なります。『生経』が何を伝えたかったのか。『注好選』は『生経』の要素を残しながらどこまで童蒙教育向けに作り替えることができたのか。そして、『注好選』がかりうじて残していたジャータカの要素を『今昔』が切り捨てたのは何故か。表現の違いはもとより、伝える側のこだわりや受者への配慮に注目すると、三つの作品の語り方には唱導のテーマや聴衆に向けての段階的な工夫がうかがえます。

他にも鎌倉時代の仏教説話集『沙石集』巻五の九では猿、虬、虬の妻が登場し、問答の部分の話の主題として紹介されています。この『沙石集』は梶原氏を祖とする八宗兼学の僧無住道暁の著作で、中世期の庶民生活や素朴な信仰だけでなく仏教の要旨や処世訓を説く啓蒙書でもあります。その後の狂言や近世の斬本などにも影響を与えたことで知られ、

落語に通じる笑い話も含まれております。ここに掲載された「猿の生き肝」も動物たちの生き生きとした問答が最大の魅力となっております。

このように仏教説話における「猿の生き肝」を見ますと、その魅力は何よりも問答の箇所において、動物同士の機知に富んだ会話がいかに人々を魅了する要素であったかということが分かります。

ところが、民間で語られた昔話の場合は少し印象が異なります。世界的な昔話の分類本『昔話の型』ではAT91「心臓を置き忘れた猿」に分類されていますが、民俗学者の柳田国男が一九三〇年にまとめた『日本の昔話』には以下の話が掲載されており、そこでは猿、竜宮の妃、亀、海月が登場します。

柳田国男『日本の昔話』「海月の骨無し」

大昔、**竜宮の王様の御妃**がお産の前になって、**猿の肝**が食べてみたいと言う、珍しい食好みをなされました。竜王はどうかしてその望みをかなえて遣りたいものと、**家来の亀**を喚んで、何かよい考えはあるまいかと尋ねられました。亀は知恵のある者で、早速日本の島へ渡つて来て、ある海岸の山に遊んでいる猿を見つけました。猿さん猿さん龍宮へお客に行く気はないか、大きな山もあり御馳走はなんでもある。行くならば僕が負うて行つてあげると言つて、大きな背なかを出して見せました。猿はうっかりとこの亀の口車に乗つて、うれしがつて竜宮見物に出かけました。なるほどかねて聞いていたよりも美しいお屋敷でありました。中の御門の口に立つて、亀の案内してくれるのを待っていますと、**門番の海月**が猿の顔を見て笑いました。猿さんはなんにも知らないな。竜王様の御妃がお産の前で猿の肝が食べたいとおっしゃるのだ。それで君がお客に呼ばれて来ることになつたのにといいました。こいつは大変だと思いま

たけれども、猿にも知恵があるので何食わぬ顔をしていますと、やがて亀が出て来てさあこちらへと言いました。

亀さん僕はとんでもないことをした。こんなお天気模様なら持つてくるのだつたが、うちの山の樹に肝を引掛けて、乾して置いて忘れて来た。雨が降り出したら濡れるだろうと思つて心配だと言いました。なんだ君は肝を置いて出て来たのか、それじゃあもう一度取りに行くより他はあるまいと、再び亀が背中に載せて、元の海岸まで戻つてまいりました。そうすると猿は大急ぎで上陸して、一番高い樹の頂上に登つて、知らん顔をして方々を見えています。亀はびっくりして猿君どうしたという、海中に山無し、身を離れて肝無しと言つて笑いました。⑨是は竜宮で門口に待つているうちに、あのおしゃべり海月がしゃべつたに相違ないと、亀は還つて来て竜王に訴えますと、けしからぬ奴ということ、皮は剥がれる。骨は抜かれる。とうとう今の海月の姿になつてしまつたのは、全くこのおしゃべりの罰だということであります。

これは当時もすでに失われつつあつた昔話を柳田が後世に伝える目的でまとめた書物ですが、この内容も大筋では仏教説話と変わりません。しかし、ここでは竜宮の門番である海月が亀の企みを猿に告げます。仏教説話では猿を騙した亀自身が本当のことを告げるのですが、密告者としての海月を新たに登場させており、本話が別名を持つことにも結びつきます。「猿の生き肝」に海月が登場しはじめたのは江戸時代であり、この話もそれに習う形ですが、昔話が仏教説話と大きく違うのは比較表⑨に相当する末尾の傍線部でお分かりいただけますように、話の結びが海月の生態の由来を明かしてお喋りを戒める内容となっております。

では、もっと身近な伝承として尾道で語られた話をご紹介します。

しよう。

尾道市因島土生町「猿の生き肝」

むかし。ある所に、山の奥の奥のおんごく（辺びな所）にのう、**猿**がおったそうな。猿は毎晩河原あ伝うてのう、沖い蟹がた拾いに行きよったそうな。

ある日、沖で蟹う拾いよったら、そこへ**蛸**が上がって来たそうな。

へえで、蛸が、「猿さん、猿さん。山の話うしてくれえ」言うんで、ほいで、猿は、「山にやあのおう、木の実もあるし、草の実もあるし、なんないと（何でも）あつてのう、山は良えんぞう。ほいで、蛸さんあんたあ海の話うしてくれえやあ」

「海は良えぞう。魚はきれいに一杯泳ぎようるし、竜宮界もあるしのう。そこじゃあ、きれいな**乙姫**さんがおるんじや」言うたら、猿が、「ほーお。わしゃあ一ぺん行ってみたあのおう」

「こんどまあ、連れてつちやるわい」いうて、そして猿と蛸は別れたんじやそうな。

そしたら、こんだあ、蛸が竜宮界へ帰ってみりやあ、乙姫さんが病氣じやいうて、ぎょうさん困りよつちやつたいうて。ほいで、猿の生き肝を黒焼きにしてのませりやあ、こりやあ、すぐ治るんじやがのう、いうてお医者さんが言われたんじやそうな。それで、蛸はしたり顔で、

「わしゃあ猿の友達がおるけえ、ひとつ猿う連れて来ましよう。こいつが生き肝を持つとるかどうか、わかりませんが」いうて、へえで、猿う連れに行つたそうな。

そして、それから何日かたつて、夜、いつもの河原へ行つて待ち

よつたら、猿がまた案の定、今夜も蟹を取りに下りて来たんじやそうな。そして、蛸と猿が、「久しぶりじやのう」いうて。

へえから、蛸が、「きょうはひとつ、竜宮界い案内しようか。猿さん」「おう、そりやあ良えのう。ひとつ案内してくれるかあ」

こりやあ、うまいこと乗つたぞう。しめしめ……思うて、蛸は猿う負うて、ドボドボドボ海の中へ潜つたそうな。ほいから、ドンドンドン行つたら、猿が、「竜宮界は、まだかいのう」

「おう。まあだ、まあだ」「ふうーん。竜宮界はまあだかいのう」

「ふうーん。竜宮界はまあだかいのう」「まあだ、まあだ」「ふうーん」言いながらついて行つたそうな。

そして、だいぶん行つたところで、「乙姫さんじゃあ、会われるんじやろうでえのう」

「やつ、それが乙姫さんが病氣なんじや」「わあ、それじゃあ、つまらんが。乙姫さんが病氣か」

「うん。ほいで、お前はなんか、猿の生き肝いう物を持つとるか」「そりようどうするんかいのう」「それがのう、黒焼きしたら、乙姫さんの病氣が治るんじやそうな」

「ああ、惜しいことをしたのう。わしゃあそりよう忘れて来たが。ほいじゃあ、今から早う連れて去んでくれえ。そりよう取つて来ちゃるけえ」

「よーっしゃ」言うんで、またプクプクプク上へあがつて、そして、元の河原へ行つて、

「早うお前、取つて来いや」「よっしゃ」いうて猿は砂浜をサツサツサツサツ行つて、そいで、新聞の畑で芋を一つ取つて、「ほうーりや。これが猿の肝じやあ」いうて猿は後も見つと、去んでしもうたそう

な。⑨それからまあ、蛸はやっぱり芋を掘りに来るんじゃないいうてね。これも十年ひとむかし。猿のけつはちーんがり。

一九八二年刊行『ひろしまの民話』第二集に収められた大正五年生まれの方が語られた話で、RCCラジオ放送向けの調査内容です。ここでは蟹を捕りに海辺に行った猿と、乙姫の薬のために出かけた蛸が語られています。海辺の生活の様子を伝える瀬戸内らしい内容とも言えますが、末尾⑨の内容をご覧いただきますと、蛸が芋を掘る珍しい習慣でまとめられています。

また、国内といっても少し離れますが、わたくしが学生時代から歩いておりました沖縄県石垣島では明治二七年お生まれの方の話として、以下の内容（『琉球の伝承文化を歩く』4所収、二〇一七年刊）が伝えられています。

石垣島「猿の生肝」

昔、竜宮の神様がご病気をされて、お医者にかかったところが、猿の肝臓がいちばん薬になると言われたそう。そしたら、誰が陸に上がって猿の肝臓を取って来るかということになって、亀が陸にも上られるから、亀にその役を命じたそう。

それで亀は、もう一生懸命に泳いで陸に上がって、猿が木の上におったので、「猿さん、あなたは竜宮城という所に行ったことがないでしょ」と言ったら、「いや、行ったことはないよ」と言ったそう。 「そんなら、私の背中に乗りなさい。今日、あなたを竜宮城につれて行って見せますから」と言って、たくみに猿を騙して乗せて来たそう。

ところが、途中、蛸が出て来て、猿に向かって、「おい、猿。あんな

たは今、亀に騙されておる。あなたの肝臓を取るためにつれて行くこととしてるよ」と、蛸が言ったので、猿は利口だから、「亀さん、亀さん、俺はね、自分の肝臓は陸に忘れて来たから、陸に戻って取って来よう」と言ったそう。

亀は肝臓が欲しいもんだから、「そんなら、戻ろう」と言って、陸まで連れて行ったそう。

そうしたら、猿は飛び降りて、「貴様、俺を騙して、肝臓を取るためにつれて行ったなあ」と言って、⑨大きな石を持って亀の甲に投げつけて、その甲を皆割ってしまったそう。

亀が甲を割られて泣いて帰ってきたもんだから、竜宮では、「どういう訳か」と聞いたら、「途中まで、私はうまく猿を連れて来たけれど、蛸が出て来て《あなたの肝臓を取るためにつれて行くこととしてるよ》と猿に教えたもんで、猿は《俺の肝臓は陸にあるよ》と言う。仕方がなくて、陸に連れて行ったところが、猿は飛び降りて、大きな石でもって私の背中をこんなに割ったのです」

「そうか、そんなら蛸を連れて来い」と言って、⑨蛸を連れて来て、臼に入れて、罰として粉々にしたそう。そしたら、蛸は、骨は骨、身は身になって、その骨はみんな臼から飛び出たので、ハリセンボンがそばに来て、「ああ、こんなに新しい骨を捨てるのか」と言って、自分の身体にみんなくっつけたので、ハリセンボンになったそう。それから、蛸はまた、骨が無いようになって、亀はまた、あんなに甲がみんな割れておるそう。

ここに登場する動物は猿、竜宮の神、亀、蛸、ハリセンボンです。密告者の蛸の骨を最終的にハリセンボンが身につけたという、いかにも南島らしい動物の組み合わせで生態の由来がまとめられています。つま

り、昔話の場合は地域の生活に結びつく動物の生態や習慣の由来譚として語られており、仏教説話が末尾で説き明かした精神的側面や本生譚的要素は語られません。そこにあえて共通要素を見いだそうとするならば、愚かな行為を強調することでお喋りを戒めるといふ点でしょうか。

ご紹介したのは「猿の生き肝」話のほんの一面であり、ほかにも戦前の教科書には掲載されなかったにもかかわらず、海外移民向けの日本語読本に戯曲的教材として掲載されていたことなども知られています。会話の妙、身近な動物、教えという魅力的な要素が個々の話における変容を可能とし、経典をはじめとする記載文芸と言ひ伝えの昔話が両立してきたことが分かります。

※ここで真言宗開祖空海と昔話の結びつきについて解説しました。詳細は『尾道文学談話学会報』第一号所収「昔話の扉をひらく2「犬の足」―後ろ足を上げる理由―」をご参照ください。

(広島大学共同リポジトリ全文公開、<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/onomichi-u/metadata/14119>)

3 地域文化

ここからは、地域における語りの世界という観点から尾道の伝承話についてご紹介しておきます。以下は、かつて尾道市中央図書館に關わられた方々がまとめられた書物の内容を一覽できるように、わたくしが便宜的に目次と伝承地を中心に整理したものを挙げております。真生会のみなさま方のお寺と直接かかわる身近な話が多く掲載されていますが、ご覧いただいておりますように尾道の中でもかなり狭いエリアの昔話が多く、語り手も限定されていたことが推測できます。しかし、現代では

知られていない話が数多く掲載されている点で大変貴重な資料と言えます。

『尾道の民話・伝説』目次

(尾道市立中央図書館、尾道民話伝説研究会編
一九八四年初刊、二〇〇二年改訂)

※()内は記載された主な場所、人名、時代。
※話名に含まれる場合は省略。

【民話の部】

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1, 千光寺の玉の岩 | 10, 力持ちの和七 (表間屋、稲田伊平) |
| 2, 鼓岩とお姫さま (千光寺) | 11, 長者かどはんや (町角の吉兵衛、屋号) |
| 3, 千光寺の身代わり松 | 12, 丹花の子育てゆうれい (丹花小路) |
| 4, 持光寺の小僧さんと天狗さま | 13, かんざし燈籠 (新開、文化文政頃) |
| 5, 光明寺の観音さま | 14, 西国寺の仁王さん |
| 6, 海福寺の三つ首さま | 15, 西郷寺の鳴龍天井の由来 (託荷上人) |
| 7, 小豆とりの狸 (土堂町の蔵) | 16, 岩から抜け出した不動明王 (浄土寺) |
| 8, 玉の浦の地蔵 | |
| 9, 天神さまの靈験碑 (長江の生玉茂七、明治頃) | |

- 17, 浄土寺山のばけ猫退治(千葉四郎衛門)
- 18, 海龍寺と蛇が池の龍王さま
- 19, 信行庵と捨身往生(行欣、向島から土堂、慶長)
- 20, 山波物語(浜子吾助、どろ神さん、長神社)
- 21, 金鶏岩(西藤町下西、法寺谷の法蓮寺)
- 22, 氏子びいきの神さま(西藤町、山王さん)
- 23, カリハタ池のキツネ(浦崎、法蓮寺)
- 24, 長池のキツネ(浦崎、庄兵衛)
- 25, 浦崎のおとぎ話(あるところ)
- 26, 金の性根(浦崎の北垣^{きたかべ}地家)
- 27, ややの鬼火(浦崎、法蓮寺、石井石見守)
- 28, 拳骨和尚(濟法寺)
- 29, 知恵くらべ 力くらべ(西国寺、濟法寺)
- 30, 巖通橋のキツネ(栗原川河口、明治頃)
- 31, 鉢ヶ峰(三原の境、法道上人、神石星居寺)
- 32, 鉄鉢(星居寺、千光寺、江戸)
- 33, 鈴姫のほこら(鳴滝、宮地常躬、応永頃)
- 34, 仙入峠(三成)
- 35, 三成の浦島太郎(浦島神社)
- 36, 名刀狸切(山野村、杉原胤平、杉原信平)
- 37, 般若が池(原田村、有光の池)
- 38, 摩衍訶寺の仁王さま(原田村、明泉寺)
- 39, 殿さまの墓(原田村、摩衍訶寺)
- 40, 天女浜塩田の人柱(向東、沖明神)
- 41, 田植え観音(向島、西提寺、喜助)
- 42, 海を渡ったキツネ(四国から頼)
- 43, 太閤松(浦崎、沖の観音)
- 44, 百島のくすべどの山(孫エ門)
- 45, 百島の軍殿(祭祀、女夫岩)
- 46, 向東で正月餅をつかぬ話(昭和24, 5年頃まで)
- 47, 和泉式部と向東(西金寺、古江浜下がり松)
- 48, 冠岩(向島、歌の置帆)
- 49, 永松のタヌキ封じ(西藤)
- 50, かさがみさま(浄土寺山腹、高須大山田)
- 51, お太子さん(高須阿草、聖徳太子堂、満福寺)
- 52, 菌痛の地藏さん(高須、茶堂池、蓮如上人)
- 53, 恋の水の由来(今津村の河本家、島津義久)
- 54, 思案地藏の話(久山田、山波、大師堂)
- 55, 背高地蔵さん(浄土寺、福善寺)
- 56, オオヒトドンの足跡(室身谷、山波長神社)
- 57, 山波のバベの木(庭師、野中正人談)
- 58, 年貢問答歌(山波長神社、餅つき神事)
- 59, 蓮如上人の夢(浄土寺)
- 60, 浄土寺十一面観世音菩薩霊
- 61, ハトの道案内(浄土寺) 験記
- 62, 水之庵と荒木村重
- 63, 正授院と葵のご紋と了般さん
- 64, 西国寺の不動明王
- 65, ざおんさん(常称寺)
- 66, 案内さんと残念さん(浄泉寺、大山寺、幕末)
- 67, 蚊帳待ちの話(伊予藩家老・山家清兵衛、久保龜山八幡宮)
- 68, 菅原道真公の腰掛岩(御袖天満宮)
- 69, 御袖天満宮の祭り
- (1) 梅花祭
- (2) 五十五段の神輿引き
- 70, 御袖天満宮の筆塚
- 71, ひなじの仇討ち(長江、安無平四郎)
- 72, かない町(長江、杓屋小路、弘法大師)
- 73, 雷と千光寺の大松(千光寺、物見の松)
- 74, 幸の前の尻つめり(天寧寺下、塞(幸)之神社)
- 75, ふた売り(土堂、奉行所通り)

- 76, ベッチャー祭り (吉備津神社、幕末)
- 77, 朝鮮半島の石 (漁師の栄じいさん)
- 78, 三軒家の下がり松
- 79, 満常寺の阿弥陀さま (吉和町則頭)
- 80, 足利尊氏と吉和浦漁師 (浄土寺)
- 81, 阿賀屋のこたつ (吉和、阿賀屋源八・ひな)
- 82, ヤマシズカ (鳴滝山、西光寺旧跡)
- 83, 大王さんの立石 (河内寺、文衛門)
- 84, 水難予防の子ども地藏像 (久山田、前田池)
- 85, うかがい地藏 (久山田、森末)
- 86, 陣頭岩 (鳴滝連山大平山)
- 87, 紅岩 (久山田、盛武)
- 88, 虫送りの行事 (美ノ郷)
- 89, 白江の観音岩 (美ノ郷町)
- 90, 圓廣寺の権現さん (美ノ郷)
- 91, 木ノ庄町弥陀八幡宮の由来
- 92, 平家の落人と竜泉寺 (木ノ庄)
- 93, 光福寺の御本尊 (木ノ庄、市原)
- 94, 摩訶訶寺の『夜の虹』 (原田町、昭和34年)
- 95, 防地川と橋
- (1) 渡瀬橋 (竹村屋と汐湯しよとうのき舟きふね辺り)
- (2) 新橋 (借楽座南から浄土寺「るり橋」へ)
- (3) 嬉志野橋 (新橋とちよぼが橋の間)
- (4) ちよぼが橋 (勇徳神社への参道)
- (5) 玉湊橋 (西国寺仁王門参道西側)
- (6) 西郷寺橋 (元は「西江橋」)
- 96, 尾道の石ぶみ
- (1) 海龍寺の田の神さん
- (2) 山脇神社の山王猿 (東久保、ゆかた祭)
- (3) 金剛院の天狗さん (重軽さん)
- (4) 浄泉寺の天の邪鬼
- (5) 御袖天満宮の牛の石像

大きく区切られた二つの部立て「民話の部」「伝説の部」については書中の表記を使用しましたが、この書物における「民話の部」は現在で言う「昔話」に分類される内容であることが分かります。地域の伝承を考える上で大切な資料の一つですので少しだけご紹介しますが、あえてみなさまにかかわるお寺ではなく、35「三成の浦島太郎」について、一般にあまり知られていない文字資料からご紹介しておきます。

以下の資料は、以前「三成学区の歴史と自然を訪ねる会」(通称「三訪会」)の方々のご案内により三成地区の浦島神社を訪れた際に頂戴した、地域情報がまとめられた内容からです。

三成の浦島神社は浦島太郎を祭神としてある。童話、伝説、物語に現はれる人物というものは必ずしも実在の物でない場合が多いのであるが、ここに昔から祭られている浦島は架空の人ではなさそうである。松永湾が深く入江であった、今から壹千余年前この地を開拓したのであろう先人であるかのようなのである。

嘉永二年(西暦一八四八年)の秋、浦島大明神の由来を記めたる古文書が朽ち破れたので書き改めるとのことわりある文書現存、これもまた破れ消失し不明の箇所があるが次のような事が記されている。

備後国浦島の領主水ノ江左衛門介が一子で成延といふ若者が使用人を従がへて海に遊び、釣を楽しんでいた、一匹の幾千年を経たと思はれる蘇生した靈龜を俘へた従者がこれを殺さんとしたので止め、海中に放つてやる、その日は釣もそこ〜に家路につく、ところが、途中松林の蔭から容色華麗なる少女が手招き誘いて彼を竜馬に乗せ竜宮に案内する、龜を救いたる大恩ある賓客と日夜饗す。幾歳月を越したかを知らず。或日、鷄鳴を聞き古郷のことを思い訣を乞い、弁財天像と玉手箱を貰い、帰路もまた竜馬にて天走ける、古郷のこの

地に着く、しかし誰れ一人として知れる者もなく幾歳月を経たるかも知れず、出で立ちし頃はこの辺りと思はれる所にも、我家も無い如何とも致し方無く昏迷する。弁財天像を地の者に渡し、祭りくれるよう託し何方ともなく消え去って行く。時に、淳和天皇の天長二年（西暦八二五年）十月七日の出来事であった。

この事が人伝へに天聴に達し「誠に不可思議なることかな、祠を建て祭事を行へ」とのことにて時の里の司が小社を建立、浦島大明神として弁財天像とともに祭つた。（西暦八二五年頃は我が国と大陸との交易も盛であり、僧最澄、空海等多くの者が唐、天竺に往来しており、草戸千軒等の遺跡からの出土品からしても、この辺りの者も彼の地との往来が何はれ。浦島太郎が居たとしても不思議ではないと考へられる）

十数年後の承和三年八月に大智識利天阿闍梨といふ高僧が遊行のことありこの僧の手により祠の傍らに海面山浦島寺が建立され、かの弁財天と、観世音菩薩阿弥陀仏を祈つたとある。

南北朝時代に、この社寺一円は足利直義の兵火に遭ひ灰燼と化した。その後放置されたままであったが桃園天皇の宝暦十年八月十二日村人の霊夢のこととあり、当時の庄屋福原政右衛門等によつて（三成字浦島一六六）浦島大明神のみは再建され爾来今日に至つている。天明七年（西暦一七八七年）八月武蔵国金川駅（現在の横浜市）の浦島寺（現在は廃寺、横浜市地図には浦島寺跡と名記あり）僧曇誉天竜といふ者が庄屋福原氏を訪ね「我が寺の記録にこの地に海面山浦島寺がある何処方なりや」と尋ねている。寺跡もさだかでないが、浦島寺も有つたことが伺はれる。文政元年補修、続いて明治十三年改建、昭和四十九年地区画整理のことあり、宅地造成のため約一〇〇米南方高地の現在地に遷宮、本殿移築、拜殿を新増築する。

残念ながらこれを支える傍証資料の確認には至っておりませんが、わたくしは『47都道府県・民話百科』広島県「浦島太郎」で以下のように解説しておきました。

浦島伝承は海をロケーションに語られる印象が強いが、尾道には沿岸部から離れた山陰への入口・三成地区に同話が伝承されている。玉手箱を開けて死んだ場所や当地に祀る浦島神社の由来書が存在したことも伝えられている。江戸時代末期の備後地誌『西備名区』に記される本話は昔話よりも伝説に近い。周辺には神仙思想をうかがわせる地名「仙入峠」「長者が原」「養老」が残り学校教育や地域行事にも取り入れられているが、山間部に伝承する不自然さが残る。郷土史研究では当地と福山市松永湾を結ぶ藤井川が理由に挙げられ、物資にとどまらない話の流通が推測されている。本話が山間部に定着した謎解きは、川を通じて海が身近であった頃の歴史探訪から出発するのも一興である。

地域と神社の歴史を物語る伝説は年に一度の祭りや学校教育、地域振興という形で今なお大切に伝承されていますが、尾道にはこの話以外にも三年間竜宮で過ごした後にはアワビに乗って帰ってきた浦島話も伝えられていたらしく、一九六八年刊の山陽日日新聞創刊七〇周年記念『心のふるさと郷土の古寺』には寺の記録に基づく報告があります。

いずれにせよ、浦島伝承は思想的偏りが無いという点で戦前から戦後にかけての教科書にも墨塗の対象にもならず掲載され続けてきたようです。勤労や充実した生活の意味を伝えるだけでなく、『日本書紀』や『万葉集』などのような古典教育にも結びつき、全国各地で地域独自の伝承として物語が成熟していき、尾道の場合も寺社に関わる大切な話として

根付いていたことが分かります。

このような地域ならではの伝承をもう一話だけご紹介しておきます。一九七五年刊行『芸備昔話集』に以下のような昔話「大歳の客」が掲載されています。

今の尾道市の出来事である。昔は今のような賑やかな町ではなかった。大晦日の夕暮、小さな一軒のあばら屋の中でペタンペタン餅をつく音がする。そこへ一人のみすばらしい老人が訪れて来た。「ご免下さい。私は家のない乞食です。どうか、今晚だけ一晚泊めて下さい」というた。「私の家は貧乏で泊めて上げることはできません。一所懸命働いて、今、一白餅をついているところです。また今夜一晚中借金取りが来てやかましく寝られません」「それでは門の灰屋でもええから泊めて下さい」「それでは筵を吊つて寒くないようにして上げましょう」

翌朝、家の主人が元日だから灰屋に寝ている人に雑煮を上げようと思うて、茶碗に三つ入れて持って行った。行って見ると老人は伏せて死んでいる。「ああ悪かった。喧しくても家に寝させればこんなことはなかった」と後悔した。仕方がないので役所に願ひ出た。役所では「お前の家に泊めて死んだのだから、お前の家で葬いをせよ」というた。粗末な葬いをして焼場でやき、翌日、骨を拾うて帰り骨を埋めるための鍬を打ちこむと、途端にその下から金の塊が出た。これからこの家は大金持になった。老人が門の灰屋で死んだので家の名をはんやというのにした。今は橋本という。

これは大正五年生の語り手による死体黄金譚で、先ほどご紹介した『尾道の民話・伝説』では22「長者かどはんや」に近似する内容です。この

『芸備昔話集』の話については『47都道府県・民話百科』において以下のように解説しました。

歳神を迎える昔話「大歳の客」が広島経済をめぐる商家と結びつく話がある。大晦日に老人が尾道の一軒家を訪ね、門の「はんや（灰屋）」でも良いからと宿を求めると、主人は寒くないように筵を吊つて寝かせた。翌朝雑煮を食べさせようと茶碗に三つ餅を入れて行く老人は死んでいた。主人は餅つきの音でやかましくても家で寝かせてやれば良かったと供養し、埋葬の鍬を打ち込むと金塊が出てきて、以後家は繁盛し屋号を「はんや」と称したのが今の橋本家と伝える。同家は第六十六国立銀行（後の広島銀行）の初代頭取でもあり広島経済界を支えた旧家である。本話につながる江戸中期以降の分家「加登灰屋」の隆盛は文人墨客との交流や慈善事業からも知られる。

「大歳の客」は一年で最も重要な時期に語られる話で乞食や老人を拒絶する隣の爺型も多いが、本話の場合は旧家にゆかりのある話にまとめられている。橋本家が歴史資料だけでなく口承文芸の世界にも登場し、旧御調郡久井町（現・三原市）で採集された点では稀少な伝承である。

全国的に知られるこのような話は、地域を支えた名士の情報を取り込んで身近に共有できる歴史物語として語られていたようです。もちろん真偽を見定めることは伝承研究の目的ではありません。仏教説話の伝承に変容が見られた通り、地域の伝承文化もそれを支える側の取り組み方によってさまざまな変容を遂げます。しかし、一方では変容という段階にとどまらず、消失への道をたどる可能性についても十分考えておく必

要があります。

結び

仏教説話、昔話、在地伝承が変容する様子を見てまいりましたが、ここには記載や語りにおける発信者側の目的だけでなく享受のあり方も見え隠れします。文字と言ひ伝えはどちらが先かという謎解きよりも、むしろ一つ一つの話の変容ぶりに注目しながら話を楽しむくらいのほうが、実は話の意味を理解し、それを伝える側の考えを知ることにもつながります。伝承には発信する側の筆者や語り手だけではなく、必ず享受する側の読者や聞き手が必要であり、どちらが欠けても成立しません。伝えたいと思う相手に対するちよつとした心遣いも、話が生き残るきつかけと言えるでしょう。

伝承をめぐり、我々にできることについて考えてみますと、昔話の再確認や循環する思想に注目することくらいはできようかと思えます。かつて収集・蓄積された声の遺産に目を向け、耳を傾け、自然の力の恐ろしさや人として生きる上で大切なことを学び、先人が残した今なお変わらぬ思想を伝えることは、日頃の小さな積み重ねにより可能となるのではないのでしょうか。大切なことは「聞くこと」であり、「語ること」の経験だと思えます。

わたくしも伝承の種まきを大学で進めているようなものですが、では昔話の優れた語り手になれるかどうか……これについてはまだまだ自信はありませんし、あるいは今後の経験、修行次第なのかもしれません。しかし、思い起こせばわたくしは昔話を聞く環境には恵まれていたと思えます。

わたくしの父はみなさまもご存じの通り説教師であり、また昔話の優

れた語り手でもありました。今ではわたくしの話の良い聞き役になってくれています。幼い頃に弟と一緒に寝物語に聞いたたくさんの父の話はそれはもう楽しいもので、桃太郎などは自作の歌が付け加えられて楽しすぎて眠れない夜もありました。

かつて、昔話の語りには一定の形式というものがあり、「今日の語りはここまで」という語り納めの話があったと言われます。父の語り納めの話は「長い話」という話名でした。「長い話をしてやろう」と始まる「天から、長い長い長い……」と続きます。ご存知の方もいらっしゃるでしょうが、この結末は「禪が降りてきた」で終わるたわいな話ですが、父の「長い話」では日によって禪以外にもいろいろな物が降りてくる上に、「長い長い……」という語りのリズムは子どもにとってはなんともし心地よく、親子揃って「長い長い」と繰り返し唱えているうちに、ときには語り手の父のほうに眠ってしまうこともありました。

この話は昔話研究では「果てなし話」という話名の中の「天から禪型」に分類されており、ある時期までは全国的に知られていた語り納めの典型例で落語の種としても好まれていたことなどを、このような研究を進める中ではじめて知りました。その点でわたくしの学問領域は、かつて柳田が「家系伝承」と指摘した昔話の伝承方法に支えられているものと確信しております。ささやかな経験が、次の何かを生み出すことになっていく一つの例と言えるのかもしれませんが。

ちよつどお時間となりました。本日は貴重な機会を賜りましたことに改めて感謝いたしますとともに、真生会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。わたくしの「長い話」もここで閉じさせていただきます。

ご静聴いただき、ありがとうございました。



※撮影・麻生祥代（村上アーカイブス）